

40

282

明日之海戰



40
282



# 明日之海戰

緒

言



本篇ハ英人 John 氏ノ新著ニシテ、有名ナル米國ノ海軍大佐馬鴻氏ノ序文ヲ有シ、本年英國倫敦ニ於テ刊行 ナリ、『戰國ニ於ケル甲鐵艦』(英國ニ於ケル戰國艦發達ノ敘事ヲ經トシ、一八五五—一八九五年間ノ海戰ニ關スル書中ヨリ、其第二十三章即チ「明日之海戰」ナル一節ヲ抄譯シ、譯者ノ特ニ本社ニ寄セタルモノナルガ、論議及ヒ論法ノ切實ニシテ井然タル、論材及ヒ用意ノ斬新ニシテ、ニシテ 匪ナル、實ニ明日之海戰ヲ豫想縷陳シテ殆ムト遺ス所ナキヲ覺ユ、乃チ我社員參考ノ資ニ供シテ益アルモノナルヲ以テ、茲ニ採納訂正シ、特ニ附録トナシテ願ツト云フ。

明治二十九年六月

水 交 社

緒 言



# 明日之海戰

英國 ウィルソン 原著  
日本 田邊直維 譯述

論述項目	頁數
論材ノ鮮少	一頁
戰列ニ必要ナル特種ノ戰艦	四頁
巡洋艦及戰艦	四頁
巡洋艦ノ弱點	七頁
巡洋艦ノ三種ノ區分	一頁
戰列ニ於ケル弱艦ノ不利	二頁
艦隊編制ノ例	一四頁
戰列中水雷艇ノ運動範圍	一七頁
戰列中水雷艇	一八頁
戰列中ノ撞角	二一頁
氣裝砲	二二頁
司令長官ノ位置	二三頁



# 明日之海戰

英國 ウィルソン 原著  
日本 田邊直維 譯述

論述項目	
論材ノ鮮少	一頁
戰列ニ必要ナル特種ノ戰艦	四頁
巡洋艦及戰艦	四頁
巡洋艦ノ弱點	七頁
巡洋艦ノ三種ノ區分	一頁
戰列ニ於ケル弱艦ノ不利	一頁
艦隊編制ノ例	一四頁
戰艦中水雷艇ノ運動範圍	一七頁
戰艦中ノ水雷艇	一八頁
戰艦中ノ撞角	二一頁
氣裝砲	二二頁
司令長官ノ位置	二三頁



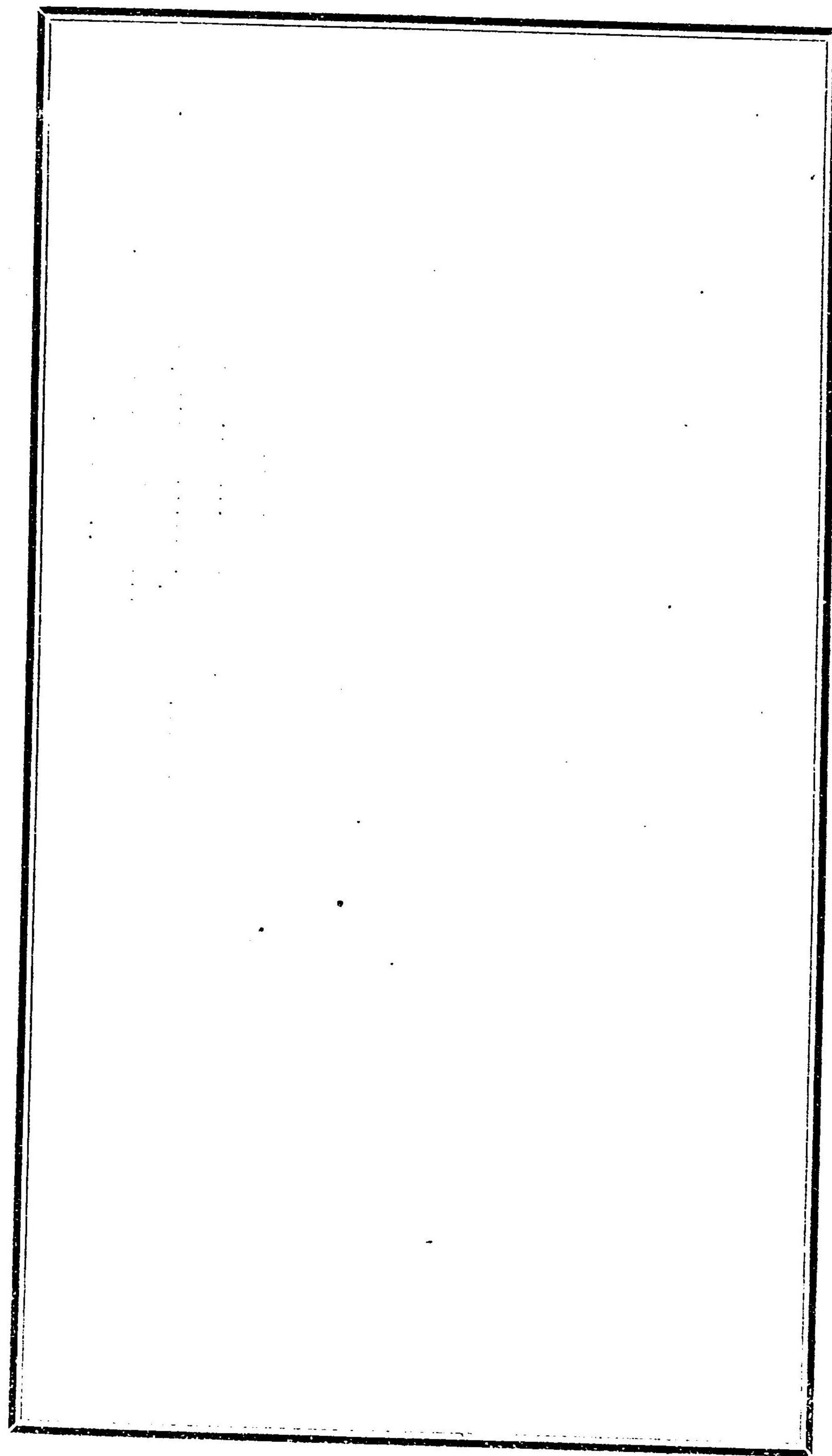
戰鬪配置	二五頁
橫陣及凸梯陣	二八頁
群隊陣	二九頁
縱陣	三〇頁
戰鬪前及戰鬪中ノ艦隊運動	三二頁
撞角ノ價值	三四頁
水雷ノ價值	三六頁
戰艦ノ裝帆具	三八頁
長距離砲火ノ効力	三九頁
戰鬪中ノ火災	四二頁
戰鬪中彈丸命中ノ比例	四二頁
艦内通信法ノ維持	四四頁
司令塔	四六頁
戰鬪中装甲ノ穿籠	四九頁
終局ノ接戰	五一頁
戰鬪中ノ死亡	五三頁
戰鬪ノ歷時	五七頁

戰艦ノ亡失	五八頁
豫想ニ至當ナミ戰艦ノ制式	六〇頁
理想的戰艦ノ武裝	六二頁
戰鬪中命令ノ繼續	六五頁
概括	六六頁



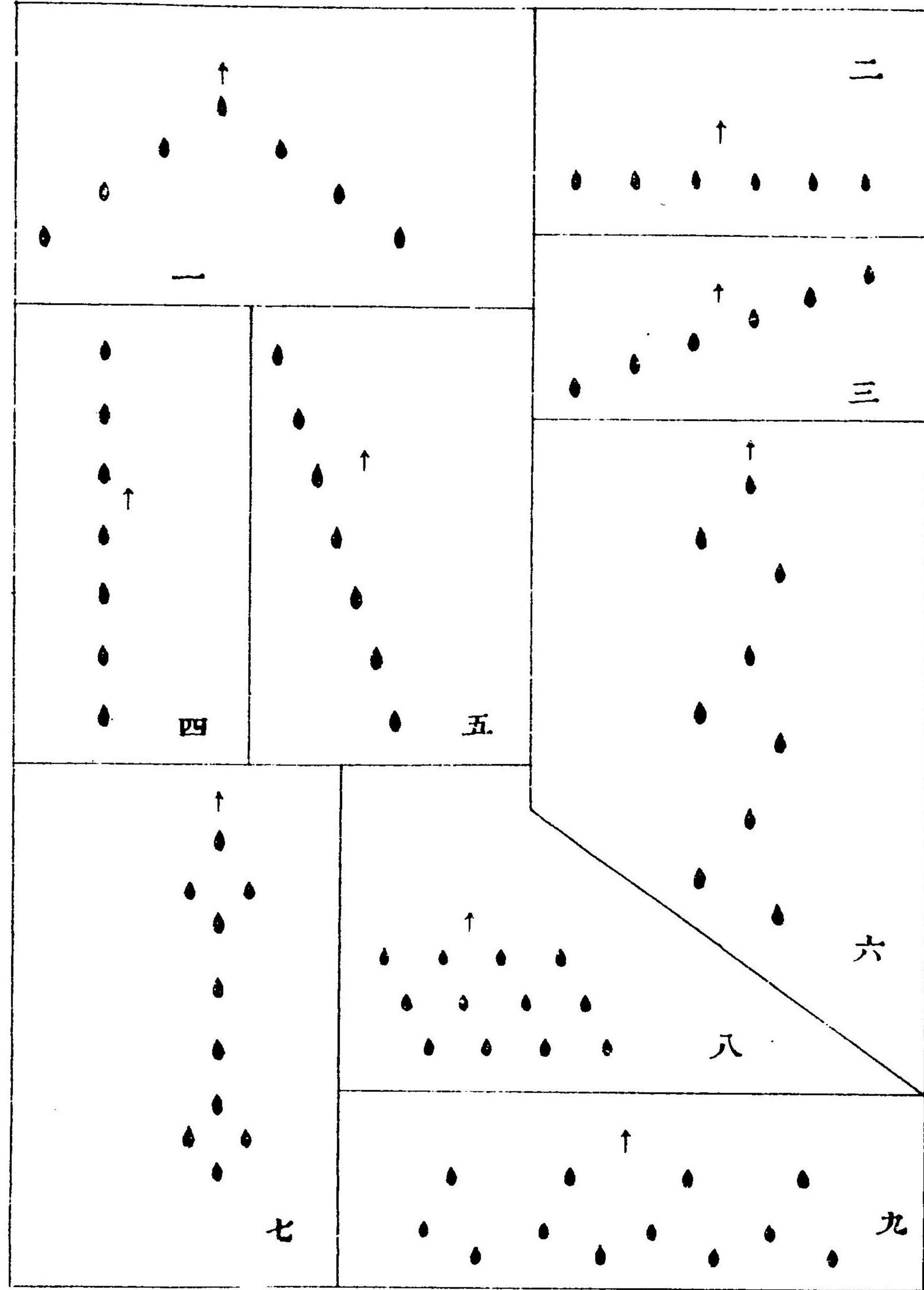


戰 艦 之 最 期





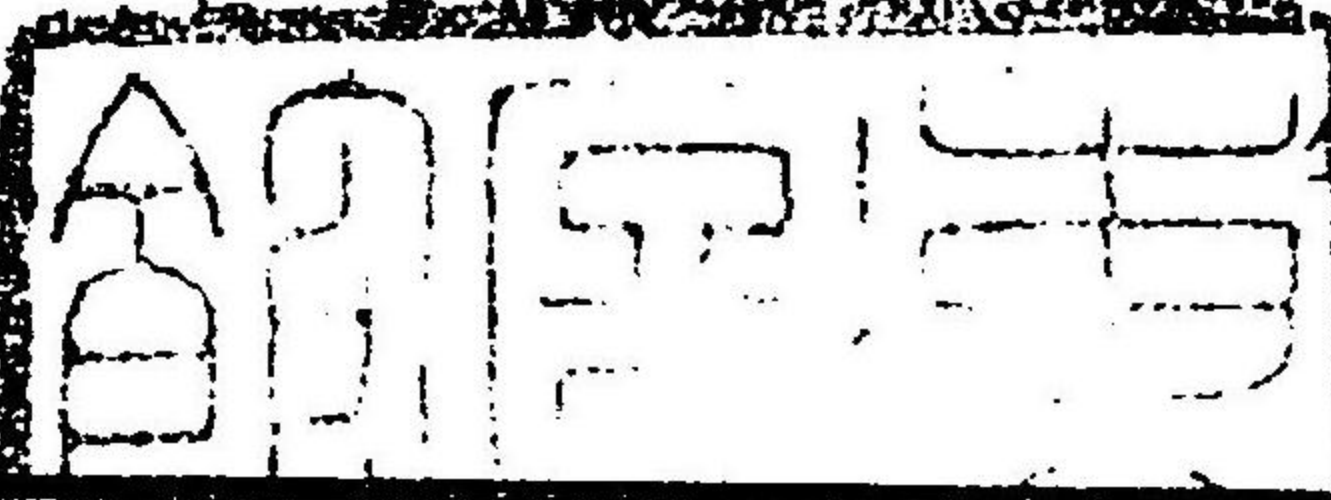
海戰陣形



一 二 三 四 五 六 七 八 九

凸梯陣  
單橫陣  
鱗次橫陣  
單縱陣  
鱗次縱陣  
群隊縱陣  
策應縱陣  
方形陣  
群隊橫陣





### ○明日之海戰

將來ノ事變ヲ先見スルノ難キハ、是固ヨリ謂フ迄モナキコトナルガ、殊ニ其判定ニ資スヘキ材料ニ乏シクシテ、**論理ノ納**中ニ免カレサルトキニハ、其困難ハ實ニ一層大ナルモノトス。即チ先例實歴ニ乏シキトキハ、**論理ノ納**ヲシテ明晰ナラシムルコト能ハサルナリ。當代ニ入り、陸上ニハ既ニ二大戦ノ吾人ノ記憶ニ存スルモノアリト雖モ、兵器ノ變更輒近ノ如ク頻繁ナルニ於テハ、此ノ經驗ニ由リテ以テ將來ノ陸戦ヲ豫想シ且ツ詳論スルモ、到底大早計タルノ譏リヲ免カレズ。而カモ海上ニ在リテハ、兵器ノ改良尙ホ一層多端シテ、其結果全ク從來ノ兵學ヲ一變セシムルニ至レリ。即チ巨砲ト曰ヒ、水雷ト曰ヒ、撞角ト曰ヒ、**機**テ此ノ如キ兵器ハ、陸兵ノ夢想タモ爲サル所ナルガ、發明ノ進歩是ノ如ク迅速ニシテ、**機**々完全ノ城ニ進ムコト亦、彼ノ如ク一日モ止マラサルカ故ニ、海上ニ於テハ昨日ノ當ル可カラサル戦具モ、**機**明トテハ人ニ見ルコト竹頭木屑モ當ナラサルナリ。夫レ陸ニ在テ戦フ者ハ人ナリ、海ニ在テ戦フ者ハ**機**器ナリ、吾人ハ敢テ機器ヲ崇拜スル者ニアラスト雖モ、機器ノ戦争ノ結果ニ及ホス影響ノ大ナルハ、蓋シ争フ可ラサルノ事實ナリトス。故ニ海軍ノ進歩トハ、單ニ最良ノ機器ヲ得、之レヲ利用スルニ必要ノ改造ヲ爲シテ一日モ忽ガセニセサルコト、彼ノ流水ノ滔々ト流レテ片時モ靜息セサルカ如クスルヲ云フニ過キス。然リト雖モ變更改良日モ尙足ラサルモノハ唯是戦具ノミ、攻守、進退ニ關スル主義要訣ニ至テハ決シテ世ト共ニ遷スルモノニアラス。故ニ現今ノ戰略ニシテ尙ホ往昔ニ異ナラサル者多ク、戦術モ亦其細目ニ時々ノ變更ヲ見ルニ過キサルナリ。



吾人ハ茲ニ甲鐵艦ノ現出以來、此利器ニ關スル世界中ノ經驗ヲ綜論スルノ機ヲ得タリ。其最モ顯著ナル者ヲ、千八百六十六年ノリッッサノ海戰、及千八百九十四年ニ於ケル鴨綠江外海洋島ノ海戰トス。リッッサノ海戰ニ角逐シタル戰艦ハ、稍現世ノ武器ニ屬スト雖モ、其、テルソン時代ノ帆走戰艦ト同シカラサルハ、尙今日ノ戰艦ノ、リッッサノ海戰時代ノ戰艦ト同シカラサルカ如キノミ。海洋島ノ海戰ハ是レニ反シ、最近ノ事變ニシテ、吾人ニ最モ須要ナル實驗ヲ得セシメタリト雖モ、惜哉此海戰ニ於テ最新ノ甲鐵艦ハ、彼我兩國共ニ使用セスシテ、戰艦ノ進行ヲ指導スル意志ニハ、尙ホ舊時ノ状態ヲ免レサルモノアリ。且ツ此兩海戰トモ、一方ノ紀律精神ハ、大ニ他ニ超越スル者アルカ故ニ、吾人ハ唯利器ノ得失ノミヲ以テ、容易ニ勝敗ノ原因結果ヲ論斷スル能ハサルナリ。蓋シ特種ノ戰艦ノ價值、造船上ニ於ケル特種ノ構造、武裝ノ制式及ヒ戰術上ニ於ケル陣形ノ利害得失ニ關シ、吾人ヲシテ未だニ適當ノ論斷ヲナサシムニハ、既ニ在リテ練熟紀律戰艦力共ニ、雙方甚タ相逕庭セサル艦隊戰艦ノ例證ナカル可ラス。然ルニ吾人ハ遂ニ如斯海戰ノ現出ヲ望ム可ラサルナリ。

單艦ノ戰艦ハ、其例證稍多ク、砲臺ト戰艦トノ戰艦ニ至リテハ、其類例甚タ多シ、即チ北米内亂史ヲ閱ミセムニハ、前者ノ戰艦陸續出現スルヲ見ルナリ。爾來アレキサンドリアノ砲擊アリシガ、此時埃及人ニシテ若シ西洋人タラム乎、其防禦ニ必ス觀ルヘキモノアリシナラム。又其後、南米伯西爾ノ内亂中ニ數多ノ戰艦ト砲臺トノ對抗アリシガ、就中單獨戰艦ノ最モ較著ナルモノハメリマツク號對モニトル艦、テンテツシ號對アラガット氏艦隊、アラバマ號對キヤルセーデ號、シャー號對ワスカイ號、ヴェスタイ號對アスサリーシユエー號、智利人ニ對スルワスカイ號ノ兩回ノ戰艦、及ヒ日本第一遊擊艦隊ノ清

國濟遠號トノ邂逅是レナリ。

水雷艇ノ攻撃ニ關シ、閩江及石浦ニ於ケル佛國人ノ伎倆ハ、論スルニ足ラサルナリ。當時ノ水雷艇ハ、單ニ戰爭ノ破裂ヲ知ラサル敵ニ遭遇シテ、其全ク備ナキニ乘シタルニ過キス。黒海ニ於ケル土耳其古ノ甲鐵艦ニ對スル魯士亞人ノ企業、ブランコエンカラダ號アクエダパン號ノ轟沈、威海衛ニ於ケル數回ノ日本人ノ襲撃ハ、大ニ後來ニ教訓ヲ遺セシト雖モ、未タ是レヲ以テ、水雷艇ノ効力及運動範圍ヲ確定シタリト謂フヲ得サルナリ。

數十年前ノ先例ト雖モ、戰艦ノ大小ニ關スル利害、戰艦ノ一般ノ必要、攻撃法陣形法ノ得失ヲ論ズルニハ、最モ須要ナル者アルナリ。蓋シ汽力ハ、數多ノ變更ヲ來タセシト雖モ、未タ事々物々ヲ全ク豹變セシムルニハ至ラス。青年學校ト唱フル雜誌ノ佛國記者ハ、汽力ト號スル溪壑ハ、往昔ヨリ長ク當今ヲ遮斷セルガ、其蘊奧得テ測ル可ラスト主張セリト雖モ、吾人ハ屢此溪壑ヲ跋涉シテ、効益ヲ獲ルヲアルナリ。海上ノ戰艦ノ成敗ハ、獨リ艦船ノ効力ノミニ關スル者ニアラスシテ又乘員ノ氣節ニ關スルヤ甚タ大ナリ。艦船ハ從來數十回ノ變更ヲ經タリト雖モ、人ノ氣慨ハ世ヲ逐フテ變移スル者ニアラス。故ニ吾人ハ謂フ、汽力ハ大ニ事物ヲ變セシト雖モ、汽力現出以前ノ實歴ニハ、尙吾人ヲ益スルモノ甚タ多シト。

吾人ハ先ツ艦隊戰艦ノ狀況ヨリ論述セントス。

戰列ヲ以テ戰艦ヲ開始ストスレハ、如何ナル艦種ヲ戰列ニ編入スルヤ保護巡洋艦ハ戰列中ニ置クヘキ者ナルヤ、戰列ニ編入スルヲ得キ保護巡洋艦ハ如何ナル種類ナルヤ、舊式ノ小形甲鐵艦ハ新式ノ大形甲鐵艦ノ業務ニ堪ヘ得ルヤ、水雷艇ハ如何ナル位置ニアル可キヤ、攻戰中水雷艇ノ業務ハ如何ナル者ナル



戦列ニ必要ナル特種ノ戦艦

巡洋艦及戦艦

ヤ、艦隊ニ應援隊ヲ備フルノ必要アルヤ、或ハ全隊ヲ擧テ戦闘ヲ開始スルヤ、是レ皆宜シク講究スヘキノ重要問題ナリ。

既往ノ歴史ニ據リテ之レヲ證スルニ戦列中ニハ種々ノ戦艦ヲ混入セスシテ等一ノ戦艦ヲ撰擇スルコト最モ必要ナルガ如シ。格倫武中將ハ、其ノ著書海軍戦闘史中ニ論述シテ曰ク往昔ハ大小強弱ノ一ナラサル艦船錯雜混入シテ、戦列ニアリシモ、世ヲ歴ルニ從ヒ數回ノ實驗ニ據リテ大艦ノ横列中ニ小艦ヲ置クノ不得策ナルヲ識リ、英國ノ戦列ハ、漸次齊一ナル艦船ヨリ組成スルニ至レリ。乃チ大砲百二十門ヲ裝備セル戦艦ハ大ニ過キ、五十六門或ハ四十八門艦ハ又小ニ過クルヲ以テ、遂ニ七十四門艦ヲ以テ最モ戦列ヲ編成スルニ適當ナル戦艦トナスニ至レリ。佛國革命ノ戰爭中ニハ、フリゲイト艦ニシテ戦列中ニ入りシ者ナカリシナリ。蓋シライオン即チ戦列艦ノ舷側砲火ハ甚タ猛烈ナルカ故ニフリゲイト艦ノ到底敵受シ得ル所ニアラズトス故ニ多クハ戦闘中ノ補助艦トナリ人命ヲ救助シ又廢艦ヲ曳クヲ以テ其主務トセシナリ。獨リカンベルダウンノ役ニフリゲイト艦ノ艦隊戦闘中ニ加ハリテ運動セシコアリト雖モ、コハ格外ノ一例タルニ過キササルナリ。スループ形コルベツト形ニ至リテハ、固ヨリ戦列ニ入りシコトナキナリ。夫レフリゲイトコルベツトスループハ各々其レ相當ニ用途ノアル者ナリ。決シテ戦闘艦ニ供用スヘキ者ニアラス。其終始主務ニ從事シテ戦列ニ加ハラサルハ固ヨリ其所ナリ。

次ニ講究スヘキハ今日ノ保護巡洋艦ト戦闘艦トノ關係ハ尙ホ往時ノフリゲイトトライントノ關係ノ如クナルヤ否ヤニアリ。是ノ論題ヲ判定スルニハ、吾人ハ先ツ今古各種ノ戦艦ノ防禦力及攻撃力ヲ査閲セサル可ラス。今假ニ千八百五十年ノ三十八門艦ヲ以テフリゲイト形ノ標準トシ同時代ノ七十四門艦ヲ以テラ

イン形ノ標準トシテ之レヲ論セントス。  
ゼームス氏ハ、往時ノライオン及ヒフリゲイト形ノ武装舷側砲火及人員ヲ左ノ如ク表示セリ。

艦種一砲數	砲ノ種別	下士卒員數	一舷一齊射撃ノ彈量
ライオン	三十二斤砲 十八斤砲 九斤砲 十二斤葛籠砲 十八斤砲 九斤砲 十八斤葛籠砲	廿八門 廿八門 廿八門 廿八門 廿八門 廿八門 廿八門	七百八十一斤 八百二十九斤 (葛籠砲彈共) 三百斤
フリゲイト	三十二斤砲 十八斤砲 九斤砲 十二斤葛籠砲 十八斤砲 九斤砲 十八斤葛籠砲	廿八門 廿八門 廿八門 廿八門 廿八門 廿八門 廿八門	七百八十一斤 八百二十九斤 (葛籠砲彈共) 三百斤

戦闘ノ際射出スル彈量ト、敵艦ニ闖入襲撃ノ時ニ必要ナル兵員トノ二者ヨリ之レヲ論スレハ、七十四門艦ト、フリゲイトトハ、尙二ト一トノ比ナリ。然レモ該兩種艦ノ使用スル火藥量ヲ考察スルトキハ、吾人ハゼームス氏ノ評論ヲ引用スルノ甚タ的切ナルヲ信スルナリ。其論意ニ曰ク、砲撃ノ慘害ハ、彈丸ノ直徑及ヒ重量ノ増減ニ依リテ、非常ナル差異アル者ナリト。故ニ三十二斤砲ヲ裝載セルライオン形ハ、其最大砲トシテ十八斤砲ヲ備フルフリゲイト形ニ比スレハ、其射出彈量ニ於テハ、殆ント二倍ノ優勢ヲ有スルノ理ナリ。當時ノ海戦ハ本艦ノ舷側ヲ毀壞スルヲ主トセシカ故ニ三十二斤砲ノ破壞効力ハ倍ニ十八斤砲ニ倍蓰スルノミニ止ドマラサリキ。又防禦力ヲ比較スルモライオンハフリゲイト形ヨリ特ニ強固ナル接合部ト、重厚ナル舷側トヲ備フルヲ以テ、亦優勢ノ一地步ヲ占ムル者ト謂フヘキナリ。







是ニ於テ乎吾人ハ巡洋艦ノ戰鬪艦ニ及ハサルノ程度ノライントフリゲイトトノ差ニ於ケルト、同日ノ論ニアラサルコトヲ確知シ得ルヲ以テ、乃チ此艦種ノ戰列ニ入ル可ラサルコトヲ極論セント欲スルナリ。

一派ノ學者ノ定説ニ曰ク、適度ナル巡洋艦ノ排水量ヲ以テ之ヲ戰鬪艦ニ配賦セムトスルトキハ其排水量ノミニ依テ其巡洋艦ヲ制スルニ足ル者ナリト。乃チ英艦アストリア級三隻ノ排水量ヲ合スレハ、レナウソ號ノ排水量ニ稍超過スト雖モ、三隻ノ砲熷ヲ合シテ、十五擲速射砲六門、十二擲速射砲十二門ヲ具備スト假定スルモ、一舷一齊射擊ノ彈量ハ、尙一千四百四十斤ニ過キズ。即チレナウソ號ノ同彈量二千五百斤ニ遠ク及ハサルニアラズヤ(共ニ小口徑砲ヲ算入セス)又往時フリゲイトノ三隻ハ、其彈量ニ於テライソ一隻ニ超駕セシト雖モ、尙相頡頏シ得ルニ過キザリキ。又「海軍年表第三十九章四百五十九葉」ニ言アリ曰ク、戰鬪艦ノ一隻ハ克ク巡洋艦ノ三隻ヲ凌駕スルニ足ルト、是決シテ過言ニハアラスト信ス。

況ンヤ戰鬪艦ノ、當ニ其勢力ヲ集中スルノ利ヲ獨占スルノミナラス、尙ホ二倍ノ彈量ヲ有スル者ナルニ於テオヤ。唯戰鬪艦ノ優勢ニ關シ、稍疑點ノ免カレサルハ、單ニ水雷ノ一事アルノミ。

以上ハ唯是、適度ナル巡洋艦及小形ナル巡洋艦ノ戰列ニ入ル可ラサルヲ論シタルニ過キズ。彼ノ我英國ニ陸續出現セムトシツ、アル、大形ニシテ強勢ナル巡洋艦ニ至テハ、大ニ其趣キヲ異ニシ、優ニ戰列中ニ入ルノ價値アル者ナリ。仍テ吾人ハ今茲ニ之ヲ檢證セムカタメニ、最モ強力ナル(現今海上ニ在リ)巡洋艦テリリアル號(長五〇〇呎幅七二呎吃水二七呎排水九〇〇噸馬力二〇〇〇)ノ比較對照ヲ再演セサル可ラズ。其要件左ノ如シ。

戰 艦

砲數	砲種	一舷一齊射擊力	水雷發射管	撞角	人員	艦	豫
五十二	十二吋尹四十六噸砲 廿三擲速射砲 十二斤速射砲 三斤速射砲	機關砲等 三斤速射砲 十二斤速射砲 十五斤速射砲 廿三擲速射砲	四十四個	以テ水雷攻擊ヲ防クニ足ル)	大零七百五十名	防禦力 十二斤砲以上凡テ六乃至十四尹裝甲ノ裏ニアリ	縱橫小區畫
五十三	十二吋尹四十六噸砲 廿三擲速射砲 十二斤速射砲 三斤速射砲	機關砲等 三斤速射砲 十二斤速射砲 十五斤速射砲 廿三擲速射砲	四十四個	以テ水雷攻擊ヲ防クニ足ル)	大零七百五十名	防禦力 十二斤砲以上凡テ六乃至十四尹裝甲ノ裏ニアリ	縱橫小區畫
五十三	十二吋尹四十六噸砲 廿三擲速射砲 十二斤速射砲 三斤速射砲	機關砲等 三斤速射砲 十二斤速射砲 十五斤速射砲 廿三擲速射砲	四十四個	以テ水雷攻擊ヲ防クニ足ル)	大零七百五十名	防禦力 十二斤砲以上凡テ六乃至十四尹裝甲ノ裏ニアリ	縱橫小區畫



(以テ水雷攻撃ヲ防クニ足ラス)

人員 大略八百五十名

右ノ表ニ據リテ之ヲ觀ルニマゼスチツク號トテリブル號トノ優劣ノ差ハ、レナウン號トエクリプス號トノ同差ノ如ク、甚シカラサルヲ覺ユ。然レモ其差異タルヤ尙ホ大ナラスト謂フ可ラサルモノアリ。蓋シマゼスチツク號ノ四大鉅砲ハ、此鉅艦ノ據テ以テ其舷側砲火ヲシテ絶倫逸群タラシムルモノナルガ、今此巨砲及テリブル號ノ廿三拇砲ヲ論外ニ置クモハ、兩艦ノ兵裝ハ、即チ殆ント同様ナルモノノ如シ。然ルニ尙茲ニ知悉スヘキ要件アリ。此巡洋艦ノ陰砲堡ハ、裝甲周到ナラスシテ所々ニ盾出部アルカ故ニ一旦マゼスチツク號ノ砲手ニ其舷側ヲ暴露スルモハ、各平方碼上一點ノ有效射撃ヲ免ルル所ナキナリ。然ルニマゼスチツク號ノ致命部ハ、廿三拇砲ノ外該巡洋艦ノ如何ナル武器ヲ以テスルモ侵襲スヘカラズ。且ツテリブル號ニハエクリプス號ノ如ク隔壁ノ設クナキガ、是大ニ大巡洋艦ノ活動力ヲ拘束スルモノナリ。乃チ此大巡洋艦ノ大戰鬪艦ニ對シテ、大ニ遜色アルハ、以上説述スルカ如シ。然レモ亦小形ノ巡洋艦ニ比スルモハ、大ニ其地位ヲ異ニスルモノアリ。即チ其巨砲ヲ防護スルノ鄭重ナル、其舷側砲火ノ猛烈ナル、固ヨリ同日ノ談ニアラズ。

以上論スル所ハ、實歴ニ依ルナク單ニ未然ヲ推考スルニ過キスト雖モ、毫モ大形巡洋艦ノ戰列中ニ入ル可ラサルノ理由アルヲ見ズ。然レモ、戰列ニ在リテ多少ノ危難ニ瀕スルコトアルハ、是争フ可ラサルノ事實ナラム。

之ヲ要スルニ甲鐵巡洋艦ニシテ、水線裝甲ヲ備ヘ、巨砲ヲ遮蔽スルニ甲鐵ヲ以テシ、此レニ加フルニ數

巡洋艦ノ三種ノ區分

個ノ隔壁ヲ有セムニハ、是戰列中ニ在テ戰鬪スルニ甚タ適スル者ナラム。即チ佛國ノヂュベト、ド、ローム號ハ、艦隊戰鬪ノ如キ長距離ニ在テハ、十五拇速射砲ノ榴彈ヲ以テ貫徹スルコト能ハサルノミナラズ、又其實彈ヲ以テスルモ、較著ナル災害ヲ被ラスコトハ蓋シ爲シ能ハサルナラム。又英國ノインベリユース號ハ、同年輩ノ第二等甲鐵艦ト相近似スル者ナルガ、之レニ反シ英國ノオールドラス級ノ帶甲巡洋艦ハ、其計畫上稍舊式ニ屬スル所アルヲ以テ、同時代ノ戰鬪艦ニ較フテ得ス。即チ其武器ニ防護ヲ缺ケルヨリ其砲手ヲシテ敵彈ニ暴露セシメサルヲ得サルカ故ニ、接戰ニ至レハ其砲臺ハ蓋シ用フルニ堪ヘ能ハサルナラム。以上ノ論述ニヨリ、巡洋艦ハ、之ヲ三種ニ區分スルヲ得ベシ。即チ中形或ハ小形ノ巡洋艦ニシテ戰列中ニ入ル可ラサル者之ヲ第一種トシ、大形ノ巡洋艦ニシテ多少危難ヲ冒スモ戰列中ニ在ルヲ得ル者之レヲ第二種トシ甲鐵巡洋艦ニシテ水線及ヒ巨砲ニ裝甲ヲ施シアリ戰列中ニ入ルヘキ者之ヲ第三種トスルナリ。オールドラス級ノ帶甲巡洋艦ハ、第一種ニ兄タルヲ得ルモ、第二種ニ兄タルヲ得スシテ、到底戰列中ニ在ルヲ得サル者ナルガ、之ヲ要スルニ、諸巡洋艦ヲシテ其名稱ニ反カサルノ當務ニ服セシムルハ、吾人ノ熱望シテ已マサル所ナリト雖モ、彼我孰レカ一方ニ優勢ナル巡洋艦艦隊ノ存在セム乎、此艦種ヲ戰列ニ入レムトスル念ノ他ノ一方ニ生スルコト、是蓋シ自然ノ勢ナリ。

茲ニ又次キノ反問ノ起ルアラム、曰ク、巡洋艦ハ何カ故ニ戰列中ニ入ル可ラサル乎、彼我一方ニハ必ラス此艦種ヲ戰列ニ加ヘテ運動スル者アラム。或ハ其沈没スルナキヲ保スヘカラサルモ、豈其浮泛中ニ砲火ノ威力ヲ逞フシテ以テ敵ノ巡洋艦或ハ戰鬪艦ノ無甲裝部ニ非常ナル災害ヲ起サシムルニ足ラストセムヤ。又吾人ノ判定スル所ニ據レバ、戰鬪ノ開始スルヤ、其初期ニハ必ラス、艦隊ト艦隊トノ對撃アラム。



然レモ勝敗ノ局ヲ結フニ長キ時間ヲ待タサルガ故ニ、單艦ノ薄圍數回ノ餘、遂ニ巡洋艦ノ孤注ヲ賭シテ  
 戰鬪艦ニ突進スルカ如キ格外ノ例ハ、將來ニ必ス其多カラサルヲ信スルナリト。  
 吾人ハ乃チ之ニ對スルニ左ノ言ヲ以テセントス。曰ク、戰艦ノ踵ヲ接シテ沈没スルハ、大ニ殘艦員ノ銳  
 氣ヲ挫折スル者ニシテ、其影響ノ及フ所ハ、遂ニ全局ノ活氣ヲ回復スル能ハサルニ至ルモノナリ。今戰  
 鬪艦十隻、巡洋艦五隻ヲ以テ、戰列ヲ編スル甲艦隊アリ、同勢力ノ乙艦隊ニシテ、巡洋艦ヲ遊撃隊ニ控  
 ユル者ト對抗シテ、戰鬪數回ノ後、其巡洋艦三四隻ノ亡失ヲ以テ、遂ニ乙艦隊ノ一兩戰鬪艦ヲ毀壞シ、  
 殆ント其戰鬪力ヲ滅盡セシムルヲ得タリトセム乎、結局ノ勝利ハ甲艦隊ニアルヘシト雖モ、其亡失ノ禍  
 害ハ、海底藻屑ノ慘況ヲシテ深ク人心ニ沁入セシメ、得テ失ヲ償フニ足ラサルナリ。  
 米國南北戰爭ノ時モ、ヒル河上ノ戰鬪ニ、北軍ノテカムセー號ノ沈没ハ、南軍ノ砲手ヲシテ、砲火一  
 閃シテ敵艦九泉ニ入ルノ好遇ヲ追想セシメ、大ニ南軍ノ人心ヲ激勵挑發セシモ、北軍ノ砲火ハ、爲メ  
 ニ一時沮喪萎靡ノ狀ヲ呈シタリキ。而シテ其後北軍ノ氣勢ヲ挽回セシモ亦、フアガット氏ノハルトフォ  
 ート號ヲ操縱スルニ果敢壯烈ノ觀ヲ極メ以テ人心ヲ奮起壯快ナラジメタルノ結果ニ外ナラサルナリ。  
 鴨綠江ノ海戰ニ濟遠ニ乘組ミ居タル一外國人、當時ノ狀況ヲ語リテ曰ク、他艦逝ケリト一報ハ、大  
 ニ支那人ヲシテ沮喪落膽セシメ復タ戰フ可ラサルニ至ラシメタリト、或ハ然ラム。  
 黄海ノ役ニ、日清兩國トモ、脆弱ナル艦船ヲ戰場ニ拉行シテ、一ノ利益ナカリシハ、甚タ明白ナル事實  
 ナリ。西京丸ノ如キ揚威ノ如キ、近時ノ巡洋艦ニ比スレハ甚タ薄弱ナリ、其ロヤルソヴェレン號又レナウ  
 ノ號ノ如キ攻撃力アル戰艦ニ遭遇シテ對抗シ得可ラサルヤ論ヲ俟タス。蓋シ艦隊戰鬪ニ船種勢力ノ齊一

戰列ニ於  
 ケル弱艦  
 ノ不利

ナル戰艦ノ必要ナルハ、今尙往昔ニ異ナラサルナリ。加之巡洋艦ハ、其幅ニ比シテ其長キコト特ニ甚シ  
 キヲ以テ、適度ノ速力ヲ以テ、運動スルトキハ、進退回轉ノ敏捷ナルコト彼ノ短身肥滿ノ戰鬪艦ニ及ハス、  
 故ニ戰列中ノ巡洋艦ハ、大ニ戰鬪艦ノ運動力ヲ減殺スルモノト知ルヘシ。

戰列編制ノ困難ヲ除却スル最良法ハ、巡洋艦ト戰鬪艦トヲ判然區別シテ、相混入セシメサルニ在テ存ス  
 ルガ如シ。日本ノ艦隊ヲ區別スルヤ、其快速ナル戰艦ヲ集メテ一艦隊ヲ編シ、遲緩ナル者ヲ合シテ別ニ一  
 艦隊ヲ作り、各隊特異ノ運動ヲナシテ他ノ掣肘スル所トナラサリキ。戰鬪艦ト巡洋艦トノ區別ニ於テモ  
 亦豈之ニ倣フ能ハサランヤ。巡洋艦ノ艦隊ハ、宜シク別ニ一隊ヲナシテ、獨立ノ運動ヲナスヘシ。乃チ  
 初メハ敵ノ巡洋艦隊ヲ求メテ戰鬪ヲ挑ミ、無裝甲ノ不利、巨砲ノ害ヲ避クンカ爲メニ、長距離ニ於テ戰  
 鬪艦ニ對抗スルヲ可トス。次テ其十五拇、十二拇速射砲ノ彈丸ヲ集注スルヲ猶急霰ノ屋上ヲ撲ツカ如キニ  
 至ラシメバ、大ニ敵ノ重砲迫撃ノ機ヲ攪亂スルニ足ルヘシ。而シテ其間ニ乘ツ巡洋艦ハ亦其有スル所ノ  
 重砲火撃ヲ獻酬スルモノナリ。乃チ斯ノ如ク運動スルモ、戰鬪艦巡洋艦齊シク戰鬪ニ從事スルモ、等  
 艦ヲ以テ等艦ニ對スルノ主義ハ、尙實行ノ裏ニアリテ、巡洋艦ハ、時ニ因リ其高速力ヲ利用スルノ機會  
 ナ得ベク、戰鬪艦ハ、廻轉圈ノ過大ナル戰艦ノタメニ、其運動ヲ牽制セラルルノ患ヒナキナリ。

戰鬪艦艦隊ヲ編制スルニ、敵艦隊ノ艦船ヲ籌リテ、遂ニ之レニ類似ノ艦隊編制ヲ計畫スルニ至ルハ、蓋  
 シ自然ノ成果ナラム。戰爭ノ開始ニ當リテハ、彼我孰レモ其最モ新式ニシテ最モ優越ナル戰艦ヲ選ブヤ  
 知ルヘキナリ。然レトモ稍小形ナル戰鬪艦ニシテ、其兵裝裝甲兩ナカラ完全良好ナルモノアラム乎、其  
 戰列ニ入ルヤ論ナキノミ。例ヘハ佛艦フェンバス號、露艦アドミラル、オルシヤイコフ號ノ如キ、英



艦レナウン號ロヤル、ソバレエン號ニ比スレハ、稍小形ニシテ其勢力亦固ヨリ數等テ下リ猶舊時ノ五  
 門艦ノ、七十四門或ハ百二十門艦ニ於ケルカ如シト雖モ、未タ戰鬪艦タルノ資格ヲ失ハサル者ナリ。又  
 稍舊式ニ屬スル戰鬪艦ニシテ、其速力大ナラズ、装甲薄弱ニシテ兵裝ノ次等ナル者アラムニハ、之ヲ糾  
 合シテ第三艦隊ヲ編制スルヲ可トス。斯ノ如キ戰艦ハ、援隊トシテ甚タ必要ナリ。乃チ其戰フヤ牢固長  
 距離ニタニ位置セムニハ、武裝強固ナラザルモ其對抗力ヲ利用スヘキナリ。然レモ若シ斯ノ如キ戰艦  
 ヲ近時ノ一等戰鬪艦ニ同伴セシメム乎、一等戰鬪艦ハ則チ之カ爲ニ其速力ヲ減セサルヲ得サルノ不利ヲ  
 招クノミナラス、時ニ又其運動力ヲ大ニ減殺セラル、ヲ免カレサルナリ。  
 尙極論スレハ斯ノ如キ舊式戰鬪隊ハ各艦相距ルニ鍵(二百間)ナレハ、一線列ニ八隻或ハ十隻ヨリ多カ  
 ル可ラス。若シ然ラサルモハ操縦自在ナルコト能ハスシテ、又距離ヲ減スレハ、僚艦互ニ衝突スルノ  
 恐レアルナリ。凡ソ數艦ヲ合シテ一隊ヲ編スルニ、主トシテ考究スヘキモノハ、速力ニアリ。若シ十  
 八節ノ戰艦ヲシテ十四節ノ戰艦ト同伴セシメサルヲ得ザラム乎、是ニ依リテ戰術上ノ優勢ハ、犠牲ニ  
 供セラルルヲ免カレズト知ルヘシ。  
 以上ノ各論ヲシテ尙一層明瞭ナラシメンカタメ、吾人ハ今、現今ノ狀態ニ於ケル英佛艦隊ノ艦船ヲ對照シ  
 テ、假ニ諸種ノ艦隊ヲ編制シ、又英國ノ海峽艦隊ヲ擧ケテ、同國ノ地中海艦隊ヲ應援シタリトナシ、以  
 テ讀者ノ參考ニ資セントス。左ニ掲クル所ハ、則チ前述ノ主義ニ基キ、編制シタル英國艦隊ノ勢力ヲ顯  
 ハス者ナリ。但シ平假名ヲ以テ書スル艦名ハ、甲鐵艦ニシテ、隊名ノ下ニ註記セル數字ハ、其艦隊ノ速  
 カナリ。

艦隊編制ノ例

佛國艦隊ヲ同主題ヲ以テ編制スレハ左ノ如シ

主 戰 艦 隊	十六節七
えんぶれす、おふ、いんぢや らみりす どらふわるがる	ればるす ふいど ばるふりゆる
第二即チ豫備艦隊	十四節
かんべるだうん るいべいるど	ほいらい ポリフエマス
第一巡洋艦支隊	二十節
ブレムヘム	エンヂミオン
第二巡洋艦支隊	十七節八
チヤイレブヂス バルハム	カンブレアン バルロナ
水 雷 砲 艦	十七節七
グレイナル サンドフライ	ヘイブ シヤイブシュータル
第三巡洋艦支隊	十六節七
スカウト	サルフライス
アレスノイサ フェイヤレス	
ドリアド スキップヂヤック スピヂ	
フロラ シビル	
ホーク	
こりんらいど ろどねい	
ろやるそべれん れそりゆしよん ないる	



ほうちん ふをるみだあぶる ねぶちゆん	主 戦 艦 隊	十四節二 でばすていしよん まるそう
かいまん りせりゆ	豫 備 艦 隊	十三節 てるれぶる
ちゆべどろちむ スウセー フオーゴン フオールバン ウアテニー	巡 洋 艦 隊	十六節八 スフアックス コスマオ トルワード ヴォーツウ
ヂベルグイ クルーグリン	水 雷 砲 艦	十八節 レীগレル レブリエー

此表ニ列擧スル、佛國一等戰艦ノ如キ、装甲ノ十全ナラサル者ヲ戰列ニ編入スルト假定スレハ、一等巡洋艦ハ、固ヨリ其同伴ニ堪フル者ト知ルヘシ。  
ぼーちん號、ふをるみだあぶる號ノ舷側ニハ、無装甲四百平方碼ノ好標的ヲ露出スト云フ。  
英國アドミラル級ノ戰艦ハ、豫備艦隊ニ編入スルニハ特ニ愛惜スヘキ者ナリ。即チ戰列ニ在リテ活動

戰艦中水雷艇ノ運動範圍

水雷砲艦

スヘキ餘力ノ十分ニ存スルモノナリ。然レトモ現今尙速射砲ヲ裝載セス。其装甲薄弱ニシテ激烈ナル爆發物ヲ排拒スルニ足ラサルヲ以テ、之ヲ他ノ九隻ニ比スレハ、判然劣等ノ位置ニアルモノトス。又ボリフエマス號ハ、艦隊接戰ニ至ラサレハ、其長所ノ伎倆ヲ現出スル能ハサルヲ以テ、宜シク豫備艦隊ニ編入スヘキモノトス。

水雷艦艇ノ定位置ハ、尙今疑問中ニアリ。水雷砲艦ヲシテ白晝敵艦ヲ襲撃セシムルトキハ、唯敵ニ巨大ノ標的ヲ授クルノミニシテ、其効ナカラム。又是レヲ戰艦ノ初期ニ出陣セシムル其蒙ル所ノ災害ニ堪フル能ハサラム。故ニ、前述ノ巡洋艦ヲシテ戰列ニ入ラシメントスル論說ニ對スル抗議ハ、水雷砲艦ノ位置ニ關シ尙一層ノ切實ヲ以テ應用セラレサルヲ得サルナリ。水雷砲艦ニシテ果シテ容易ニ戰列中ニ入ラシム可ラサルモノトナラムモ、尙賭スヘキニ用途アリ。其一、水雷砲艦ハ宜シク戰艦ノ下風側ニ位置シ、敵ノ水雷艇ノ襲來スルカ如キアラム乎、挺出シテ肥大ノ同僚(我戰艦巡洋艦ヲ指ス)ヲ防護スヘシ。惟フニ水雷砲艦計畫者ノ素志ナリシナラム。

斯ノ如キ位置ニアル水雷砲艦ハ、常ニ戰艦ノ腋下ニ密接シテ、其庇護ヲ受クサル可ラス。然ラサレハ戰艦ノ舷側ハ甚タ高キヲ以テ、其艦上ヲ飛過スル彈丸ハ、陸續該砲艦ヲ拍撃スルニ至ル可シ。

敵ノ水雷艇襲來シテ、魚形水雷ノ有効圏外ナル六百碼ノ距離ニ至ルマテ、我戰艦ニ近遜スルトキハ、前述ノ水雷砲艦ニ面接スヘシ。蓋シ敵ノ艇隊ハ、三千碼外ヨリ六百碼ニ接近スルマテ二千四百碼ノ間ハ我砲火ノ下ヲ潜行セサル可ラスト雖モ、我水雷砲艦ノ戰艦ニ侍スル者ハ、其眷顧者(我戰艦ヲ指ス)ヲ庇護セムカタメ汽力ヲ張リテ六百碼ヲ進航スルノ間ニ激烈ナル敵彈ヲ蒙ルニ過キス。何トナレハ水雷



艇攻撃ヲ試ムル敵ノ戰鬪艦ハ、既ニ發縱セシ水雷艇ノ頂天ニ向テ發砲セサルヲ得スシテ之カ爲ニ艇隊ヲ甚タ危險ノ地ニ陷イラシムルノ患ヒアルカ故ニ、専ラ水雷砲艦ト砲戰スルヲ得サレハナリ。上述ノ如キ位置ニ水雷砲艦ヲ置キシ時ニ當リ、若シ我戰鬪艦ニ至急ノ廻轉ヲ要スルカ如キコトアラム乎、固ヨリ其運動ヲ碍クルヤ必セリト雖也、亦克ク其掩護ヲ受ク得ルヲ以テ、必須ノ機ニ迫リ直チニ其効ヲ奏スヘキハ、蓋シ是争フヘカラサルノ事實ナラム乎。

其二、水雷砲艦ヲ以テ別ニ一隊ヲ編制シ、敵ノ水雷砲艦又ハ水雷艇ノ舉動ヲ偵察シ、或ハ是レト角闘スルヲ以テ其專務トナスニ在リ。又敵ノ速射砲既ニ脱却或ハ鎮靜シテ、只重砲ヲ冒スノミナルカ如キ好機ヲ利用シ、直チニ急行突撃シテ奇功ヲ奏スルモ可ナリ。

航洋水雷艇、或ハ尙大形ナルデストロイアル級ノ水雷艇數隻ハ、今後彼我共ニ艦隊ニ追隨シテ其效ヲ顯ハスニ至ルヘシ。夫レ水雷艇ハ防護ヲ缺ケリ、乃チ其賴リテ以テ倚安スヘキ者ハ、甚小ノ外形ト甚高ノ速力トニ過キズシテ、其攻撃力モ亦五百碼以外ニ在リテハ無効ナリ。然レモ其有スル魚形水雷ニシテ一タヒ命中セム乎唯其一發ヲ以テ巨艦ヲ粉碎スルニ足ルナリ。故ニ水雷艇ニシテ縱橫奮進スルニ至ラム乎、之ニ觸ル、艦船ハ如何ニ堅牢ヲ極ムルモノト雖也、踵ヲ接シテ沈没スルニ至ルヘシ。然リト雖也戰鬪艦ニシテ其速射砲尙効力ヲ逞フシ、砲手尙屈撓セスシテ其勢氣熾ナム乎、水雷艇ハ又決シテ突進襲撃スルコト能ハサルナリ。故ニ水雷艇ノ其功ヲ逞フスヘキ機會ハ大抵戰鬪ノ終末ニ來ルヘシ。即チ數回ノ砲戰ノ餘其甲鐵ニ大ニ破綻ヲ呈セシト、水雷艇ノ好標的(敵艦ヲ指ス)其活動力ヲ失フタルト、奮戰激闘ノタメ兵員大ニ減シ又大ニ困憊シタルトキ等ハ、其最モ乘スヘキ時機ナリトス。然レモ戰鬪艦ハ斯ノ如キ

戰鬪中ノ  
水雷艇

時機ニ際會スルモ尙其補助兵器ヲ備ヘテ、邀撃セントスル戰鬪艦ト應戰スルヲ得ヘク、又襲撃シ來ル水雷艇ヲ擊退セントスル餘力ノ尙アルヘキ者ナルヲ以テ、其業タルヤ固ヨリ容易ナラス、即チ廢艦ヲ打破スルト同日ノ論ニアラサルナリ。蓋シ彼我ノ兩水雷隊ハ、互ニ其時機ヲ伺フモ、戰鬪艦ノ死命ヲ制セントスル襲撃ノ好機ハ、到底其時ニ來ラサルヘキヲ以テ、今後ノ戰鬪ニ於テハ必ス、大艦接戰ノ終末ニ際シ、小艦艇相紛糝シテ、甚タ激烈ナル争鬪ヲ見ルナラム。

戰鬪ノ開始ニ當リテ加ヘタル一大打擊ノ、敵ヲ戰慄セシメテ、其效果特ニ全局ノ勝敗ニ關スルコトアリ。故ヲ以テ其謀ノ淺薄ナルニ關セス、開戰早々敵艦ニ向テ水雷艇攻撃ヲ試ムル者或ハアラム。仍テ斯ノ如キ水雷艇ノ挺出スルニ遭遇セントスル戰鬪艦ハ、必ラスヤ其附近ニ水雷艇ヲ準備シ、以テ其緩急ニ應セシメサル可ラス。乃チ此際ニ在テハ、前章水雷砲艦ノ條下ニ詳述セシ如ク、我水雷艇ハ必ス魚形水雷ノ有効圏外迄本艦ヲ離レテ、敵ノ水雷艇ノ突出ニ備フルヲ要ス。又本艦ハ宜シク其運動ヲ巧ニシ專ラ該敵艇ヲシテ長ク大艦ノ砲火ニ暴露セシムルニ勉ムヘシ。或ハ斯ノ如キ際ニハ、敵艇接近ノ時限ヲ遅延セシムルノ主意ヨリ、少シク戰列ヲ遠サクルモ可ナリ。又敵ノ水雷艇我戰鬪艦ニ直進シ來リ、我戰鬪艦是レト直角ノ方位ヲ取テ前進スルト假想スルモ、敵艇ガ其目的ノ地ニ達セントスルニハ、二千四百碼ヲ航過スルノ間、砲火電閃ノ下ヲ潛行セサルヲ得ス。乃チ二十節ノ速力ヲ以テ是ノ距離ヲ航過スルニハ、殆ント三分三十秒ヲ費スニ由リ、其間ニハ蓋シ、十五拇速射砲ナレハ、十乃至十五個、十二拇速射砲ナレハ、二十乃至三十個ノ彈丸ハ、該艇ニ兩注霰集スヘキ理ナリ。智利ノ内亂伯西爾ノ内訌ニ於テ其攻撃ニ從事セシ水雷砲艦ハ、唯一二ノ爪痕ヲ受タルノミニテ遁逃スルヲ得タリト雖也、是全ク暗夜ニ乘シテ、強



勢ナル速射砲ヲモ有セス又紀律整然タラサル戰艦ヲ襲撃シタルニ過キサルナリ。故ニ速射砲ヲ備ヘ無烟火藥ヲ用フル近時ノ戰艦ニ對シテ白晝横行スルモノトハ固ヨリ口ヲ同クシテ論ス可ラス。夫レ水雷艇ノ容易ニ打撃スヘカラサル標的タルハ、固ヨリ論ヲ俟タサル所、故ニ上述ノ如キ幸ヲ萬一ニ邀フル水雷艇ノ使用法ニシテ若シ採用サルアラム乎、其一ニ二隻或ハ功ヲ奏シ、爲メニ一隻ノ戰艦ヲシテ跛躄トナシ旋テ海底ニ潜マシムヘシト雖モ、水雷艇ヲ使用セシ方ノ損失ハ、到底償ヒ能ハサルモノナラム。カスシング級ノ水雷艇ニシテ五、六隻ヲ失フトセム乎、其災害ノ該艦隊ニ及ホス影響ハ甚タ大ナリ。蓋シ理想的ニ完全ナル水雷士官ハ、實ニ稀少ナル者ナリ。其尊重スヘキ固ヨリ論ヲ待タス。故ニ此貴重ナル要素ヲシテ小利ノ爲メニ危險ニ陷イラシムルカ如キハ甚タ策ノ得タル者ニアラズトス。又水雷攻撃ハ、其膽勇、沈着、敏捷悉ク理想的ノ企望ニ適フ士官ニアラザレハ、其功ヲ全フサル能ハサル者ナリ。彼演習ニ於ケル水雷攻撃ノ如キハ、水火ノ責苦ナク、又沈沒殺戮ノ慘劇ヲ演出セス、故ニ之ニ由テ其眞ノ伎倆ヲ試ムルコトハ固ヨリ之ヲ望ム可ラス。水雷艇ノ兵員ハ、實ニ猛烈ナル砲火ノ下ニ運動シ、而シテ其敵ニ應砲スルノ自由ヲ有セサル者ナリ。故ニ其兵員ニハ、非常ノ沈靜ト、非常ノ勇氣トヲ要ス。若シ水雷艇隊ニシテ多少ノ損害ヲ蒙リ、之カ爲メニ一旦退去スルカ如キ舉動アラム乎、該兵員ノ腦裏ニ感染スル擊退ノ觀念ハ、治癒スヘカラサル心理上ノ惡結果ヲ惹キ起スモノナリ。(陸海軍協會雜誌第三十八號七百六十三頁ヲ參看スヘシ)。

海戰中彼我互ニ混亂紛擾シテ闘フアラム乎、是水雷艇攻撃ノ好機會タルヤ論ヲ俟タス。然レモ亦斯ノ如キ時ニ、水雷艇ヲ用フルハ甚タ危險ナリ。即チ其敵ニ及ホス危險ヲ同様ニ味方ニ及ホスナリ。黃海ノ

海戰ニ於テ支那ノ水雷艇ハ敵味方ヲ判別スル能ハサリシト云フ。斯說ニシテ果シテ眞ナラム乎、是其タ重要ナル一訓誡ナリトス。蓋シ該海戰ニ於テハコルダイトモマイドノ如キ無烟火藥ノ使用稀少ナリシヲ以テ、砲煙ノ濃密ナリシハ疑フ可ラスト雖モ、亂闘ニ至ルヘキ事情ハ甚タ鮮少ナリキ。然ルニ敵味方ヲ辨セサル斯ノ如キニ至レルヲ見レハ、後世ノ大ニ前鑑トスヘキ所ナリ。蓋シ戰場ニ於ケル水雷艇ノ運動區域ハ、大ニ陸戰ノ騎兵ノ驅逐範圍ニ類似スルヲ以テ、是種ノ艦艇ヲ海上ニ用フルコトハ、宜シク陸戰ニ騎兵ヲ用フルカ如クナスヘシ。即チ敵ノ不意ヲ撃チ、或ハ敗殘ノ者ヲ滅盡スルカ如キハ、當サニ其任トナスヘキ所ナルヘシ。

英國ノ艦隊中ニ、撞角ヲ利用センカ爲メ一種特異ノ構造ヲ以テ、成レル一戰艦アリボリアエトマス號即チ是レナルガ、米國ノカタアザンノ如キモ亦、此艦種ニ屬スルモノナリ。世ニ小形ニシテ快速ナル撞角艦ヲ庇護スルノ論者多シ、然レモ斯ノ如キ戰艦ハ如何ナル程度ニ迄其目的ヲ達シ得ヘキヤ、或ハ其理想上ノ効力ヲ以テ果シテ實用シ得ヘキ者トナスモ、其必要ノ程度ハ如何ナルヤ、是レ皆尙疑問中ニアル者ナリ。夫レ敵艦ニ衝突シテ其目的ヲ達スルニ要スル能力ハ、我艦ノ迅疾ナル速力ト、自在ナル操縱トノ二者ニ在リ、故ニ彼艦ヲシテ此一能力ヲ有セシメム乎、我意ハ乃チ之ヲ果スコト能ハサルヘシ。又高速力ヲ得ントスルニハ、獨リ速力試驗ノ時ノミナラス、海航中常ニ高速力ヲ維持セサル可ラサルノ必要アルヲ以テ、必ラスヤ其汽罐ヲ重大ニシ以テ其機關ヲ強力ニセサル可ラス、且ツ機關ノ震動ニ抗シ衝突ノ劇動ニ堪ヘシムルカタメニ船艀ヲ堅牢ニセサルヲ得サルヲ以テ從フテ其排水量ニ大ナル増加ヲ見ルヲ免レサルナリ。蓋シ斯ノ如キ堅牢ニシテ重大ナル戰艦ハ、之ニ巨砲及裝甲ヲ賦與スルトキハ則チ儼然タル



氣裝砲

一ノ戰艦トナリ、賊與セサルトキハ則チ未ダ其唯一ナル利器ヲ用フルニ至ラスシテ既ニ早ク砲火ノタメニ破毀セラル、ヲ免レサル所ノ者トナルヘシ。加之是利器ハ其効力ノ最モ疑ハシキ者ニシテ眞ニ僥倖ヲ萬一ニ賭スルニ過キサレバ尙後章ヲ待テ論述セントス。

尙ホ茲ニ數年前現出シタル一種ノ戰艦アリ、多量ノダイナマイトヲ遠距離ニ發射スルノ目的ニ供スヘキ霹靂砲ヲ裝載セル戰艦即チ是レナリ。蓋シ霹靂砲ノ發達ハ、現今尙幼稚ニ屬スト雖モ他ノ諸發明ト同シク其後來大ニ改良完全ノ域ニ進ムヘキヲ豫想スルハ當然ノ理ト謂フヘシ。此砲ハ其形ノ長大ナルヨリ敵ノ爲メニ速射砲ノ好標的トナリ、且ツ其構造亦鞏固ナラスト雖モ、一分時間毎ニ能ク最高度ノ爆發藥二百斤ヲ保有スル榴彈ヲ二千碼ノ遠距離ニ發射シ得ル者ナリ。而シテ其榴彈ハ時ニ依リ十二秒ノ長時間空中ヲ駛行スト云フ。

ファイラデルフイヤ號ニ擬造シタル標的ニ對シ、一千乃至二千碼ノ距離ヲ以テ發射ヲ試ミシニ、百分ノ四十四ハ命中セリ。其彈丸ノ効力ハ、實ニ水雷ニ讓ラスシテ、有効距離ハ保氏水雷ニ二倍乃至五倍シ、其命中ノ確實ナル點ノミニ於テモ、恐ラクハ保氏水雷ニ劣ラサルヘシ。又此榴彈ノ信管及大砲ノ機ニハ、近來大ニ改良ヲ加ヘタリト雖モ、此利器ノ價值ニ關シテハ、世上尙疑問ヲ懷クモノ多シト云フ。

霹靂砲ハ、單獨ノ戰艦ノ如キ、自由自在ニ移動シ停止シ緩行シ緩歩シテ之ヲ避クルヲ得ルノ機能ヲ有スル者ニ對シテハ、即チ未タ水雷ノ如ク較著ノ効ヲ顯スヲ得スト雖モ、艦隊ノ如キ各艦十分ノ自由ヲ以テ運動スル能ハス其僚艦ニ準據シテ止動セサルヲ得サル者ニ向テハ、特ニ絶群ノ効力ヲ逞フスル者ナリ。惟フニ斯ノ如キダイナマイト砲艦ハ、大艦ノ下風側ニ占居シ、大艦ノ頂邊ヲ掠メテ其霹靂砲(ダイナマイト

彈ヲ指ス)ヲ敵ニ放射スルトキハ、最モ其妙用ヲ極ムルナラム。蓋シ此霹靂榴彈ノ戰艦ノ舷側或ハ甲板ニ觸撃破裂シテ釀成スル慘害ハ、實ニ非常ナルモノナルヘシ。然レトモ特ニ此目的ニ供センカタメニ造ラレタル米艦ヴィシユヴィアス號ハ、尙ホ人意ヲ滿スニ足ラサル所アルヲ以テ、近來其霹靂砲ヲ除却セントスルノ議アリト云フ。

霹靂砲ニシテ一タヒ完全ノ域ニ達セムニハ、其一閃ハ現時ノ形狀ニ於ケル戰艦ヲシテ直チニ露露ノ曲ヲ唱ヘシムルニ足リ、又後來如何ナル防護法ノ創意ヲ見ルモ、其毒焰ヲ遮斷スルコトハ到底難カルヘシ。霹靂砲ヲ發スルトキハ其艦艙ニ感受スル空氣衝力ノ震動ハ甚タ經微ナルモノナルヲ以テ、此砲ヲ商船ニ裝載スルハ容易ノ業ナリ。現ニ伯西爾ノ内亂中、商船ニセロイ號ニ於テハ、此砲ヲ使用シタリト云フ。

司令長官ノ位置

戰艦中司令長官ハ何レノ位置ニ在ルヘキヤ、是レ亦世上ニ多少ノ異論アリテ、未タ其見解ヲ一定セス。リッサン海戰ニ、伊國ノ司令長官バルサノ氏ハ、塊他利艦隊ノ電撃シテ來ルヲ知リテ、咄嗟ノ間ニ戰艦列ヲ離レ、命令傳達ニ便ナランヲ欲シテ、列外ニ出テ、誤テ諸艦長ニ其旗艦ノ交替ヲ知ラシメサリシガ、之カ爲メ其結果ニ恢復スヘカラサル慘禍ヲ生セリ。故ニ論者多クハ謂ヘリ、輕小ナル戰艦ニ在リ又ハ豫備艦隊ニ退ケル司令長官ハ、唯戰艦ノ監視者タルニ過キス、乃チ轉瞬ノ進退ニ全局ノ輸贏ヲ決スルカ如キ機會ニ遭遇スルコトアルモ、直チニ掌ヲ離スカ如ク陣形ヲ變スルコト能ハサルヲ以テ、是甚タ不利ナリト。(マハン大佐著海上權力史三百五十三頁ヲ參看スヘシ)是派ノ論者ノ說ニ據レハ則チハトリン港ノフアラガット氏リッサンテゲソフ氏トラファルガルノチルソソ氏ノ如キハ、皆艦隊ヲ引率スル司令長官ノ好摸範ヲ遺セシモノナリ。

明日ノ海戰



トラファルガルノ戰鬪前テ、艦下各艦長ノ交モ其危險ヲ唱ヘテ、陣頭ニアル可ラスト憊懣セシテ聽納シ、一旦ハ其意ニ從ヒシモ、再考ノ後決然先鋒ニ挺出シタリト云フ。

トラファルトノモトヒル河及ニウオレアンズニ戰フヤ、諸艦長ノ勸告ニ從フテ後陣ニ在リシガ、モトヒル河ノ戰ニハ深ク其勸告ニ從ヒシヲ悔ヒ、其關戰ニ及ヒテ危機ノ迫ルヲ見ルヤ、直チニ蹶起シテ先鋒ノ位置ニ復セリト云フ。

往時ノ海戰ニ於テハ、彼我ノ戰艦、現今ヨリモ近ク迫リシト雖モ、其上甲板ニ在ルノ危險ハ、蓋シ今日ノ如ク甚シカラサリキ。故ニ司令長官ガ先頭ニ立チ身ヲ挺シテ諸艦ヲ激厲セントスル今日ノ困難ハ即チ往時ト同日ノ談ニアラサルナリ。然レモ同官ノ舉止ニシテ假令如何ニ勇敢ヲ極ムルモ、若シ衆目ニ觸レサラム乎諸艦ヲシテ旗艦ノ勇恣派爽タルヲ瞻望セシムルコト能ハス。又同官ニシテ陣頭ニアラム乎、其我艦ノ所ニ隨フヘシトノ一手段ハ、信號ヲ須タスシテ決戰スルヲ得ル者ナリ。トライオン中將ノ地中海艦隊ヲ指麾スルヤ、常ニ此手段ヲ慣用セリト云フ。英國ノ戰鬪艦巡洋艦ニハ、多クハ信號手ヲ防護スルノ裝置ナク、桅檣モ亦彈丸ノタメニ最モ挫折シ易キ者ニシテ、又電信信號器ハ、敵艦ヨリ叢集シ或ハ水ヲ掠メテ進射スル彈雨中ニ在リテ悄然子立スル者ナリ。故ニバツテンバルグ公ルイス氏意匠ノ檣頭ヨリ信號ヲ傳達スル方法、若クハ遮蔽物ノ下ニ信號裝置ヲ備フルカ如キ方法ニ改良ヲ加ヘ、眞ニ簡單ニシテ安全ナル信號裝置ノ戰艦上ニ現出スルニ至ル迄ハ、司令長官ノ危險ハ到底免ル能ハサル者ナリ。或ハ後來斯ノ如キ裝置法ノ發明アルモ、遠距離ニ在ル支隊ニ通信シ、大艦隊ノ廣闊距離ニ在ル者ト信號スル如キ、皆容易ノ業ニ非サルナリ。是ニ於テ乎司令長官ガ戰鬪前ニ豫メ其長官ノ爲サント欲スル所ヲ了知シテ共ニ取ル

ヘキ方略ヲ謀議シ、以テ其意志ヲ融會通曉スルハ、最モ緊要ノ事ナリト知ラル。テルソン艦下ノ諸艦長ノ皆能ク其長官ノ意思ヲ豫知シテ戰鬪ニ際シ各々其意思ニ背馳セザラント争ヒシハ、全ク是ガ爲メナリ。

數回ノ信號ヲ用フル必要ハ、則チ斯ノ如クシテ悉ク除却スルヲ得ルナリ。

伊國ノ司令長官ノリッサニ於テ彼ノ如キ否運ニ遭遇セシハ職トシテ上述ノ意ヲ知ラサルニ由ルナリ。

鴨綠江ノ役伊東中將ハ、本隊ヲ引率シ、坪井少將ハ遊擊艦隊ヲ指麾セリ。故テ以テ日本艦隊ニ於テハ信號ヲ容易ニ施行シ得タリ。佛艦ニ於テハ、其強固ナル兵裝檣ノ空胴ニ段階ヲ設ケテ、其中心鋼ノ心索ヲ貫通シ、以テ信號法ノ便ニ供セリ、故ニ戰時ノ信號法ハ英艦ヨリモ大ニ便利ナルヘシ。モトヒル河ノ役フアラガット氏ハ索梯ニ攀躋スルノ必要ヲ感ジタリト。乃チ之ニ徴スルトキハ、司令長官司令官ハ、戰鬪ニ際シ時ニ檣樓ニ其位置ヲ占ルノ大ニ便益ナルヲ思フコトアラム。然レモ將官ノ生命ハ特ニ貴重セサル可ラサルヲ以テ、從來將官ノ持場ニハ特種ノ防護ヲ施スヲ常トスルニ、兵裝檣ハ全ク敵ニ暴露スルモノナルカ故ニ、此想像ハ未タ之ヲ實行スルニ至ラス。トライオン中將ハ常ニ謂ヘリ、曰ク、艦長ハ前面ヲ注視シ將官ハ後方ヲ顧ミサル可ラスト、蓋シ前部ノ司令塔ニ在テハ艦尾ノ諸艦ヲ見ル能ハス、後部ノ司令塔ニ在テハ艦首ノ各艦ヲ目スルヲ得サルニ、獨リ檣樓ニ在テハ、一物ノ眼界ヲ遮ルモノナクシテ、前後左右皆一眸ノ中ニ集ルナリ。故ニ吾人ハ謂ハントス、曰ク、檣樓ノ高サニ至ルマテ二三寸ノハイヴエー鋼ヲ使用スルモ、敢テ艦艀ノ復原力ヲ減スルニハ至ラサルヘシト。但シ檣樓ヲ以テ、將官ノ戰時持場ニ供スルトキハ、艦長トノ通信法ヲ完全ニスルハ、易易タルノミ。

吾人ハ是ヨリ、艦隊戰鬪陣形ノ大略ヲ論述セントス。戰鬪陣形ノ性質ニ就キ、之ヲ種別スルルハ則チ五



個ノ陣形ヲ得、曰ク單縱陣、曰ク單橫陣、曰ク梯形橫陣或ハ梯形縱陣、兩三ノ戰梯陣ヲ以テ、單位トナシタル、縱陣或ハ橫陣。曰ク群隊陣、曰ク方形陣、是レナリ。執ルヘキ戰術ト用フヘキ戰艦ノ特質トハ、共ニ大ニ陣形ノ判定ヲ示導スル者ナリ。乃チ混戰ニ適シ、水雷或ハ撞角攻撃ニ適スル陣形、必スシモ砲戰ニ適スル者ニアラサルナリ。

單縱陣或ハ單橫陣ノ如キ一直線ノ陣形ハ、其不利ノ點少ナカラス、即チ其翼端ノ孱弱ナル、地歩ヲ占ムルノ廣大ナル、勢力ノ集中セサル、敵ノ攻撃ヲシテ其一方ニ偏集セシメ、是レカタメ遂ニ其乘スル所トナル等、是皆其短所ナリ。加之單橫陣ニ在リテハ、艦隊中ノ舷側砲火ハ用フルニ地ナキヲ以テ、自然舷側砲擊ニ出テサル可ラス。然ルニ此舷側砲擊ノ効果ヲ收メントスルニハ、敵亦同陣形ヲ以テ來リ、互ニ混糝シテ亂闘セサルガ故ニ此期ニ至レハ隊形自カラ紛亂シテ單艦各所ニ孤立シ、唯運命ニ因リテ勝敗ヲ決スルニ過キサルヘシ。

單橫陣ノ各翼端ハ唯單艦一舷ノ舷側砲火ヲ用フルヲ得ルノミ。故ニ敵ヲシテ其翼端ヲ經繞セシムルノ不利アリ。

舷側砲擊ノ主義ハ、千八百七十五年ヨリ同八十五年ニ至ル迄入ノ多ク唱道セシ所ナリ。故ニ此時代ノ砲塔艦ハ其前後ノ砲塔ヲ配備スルニ、前後左右相正對セシメスシテ斜角ヲナサシメ、以テ其射角線ノ相紛交スルヲ防セケリ。之レヲ雁行形砲塔艦ト稱ス。インフレキシブル號ノ如キ、コロスサス號ノ如キ、單橫陣戰闘ニ適セシメンカタメニ特ニ其砲塔ヲ計畫セシヤ明カナリ。是レ其砲塔ヲ以テ舷側砲ノ交射圈ヲ限制セシモ敢テ顧ミル所ナカリシ所以ナリ。近時ニ至テ我英國ノ戰艦ハ、大ニ其面目ヲ改メ、往時ノ定

論タリシ優勢ノ舷側砲火ヲ備フルヲ以テ、其主旨トスルニ至レリ。

優勢ナル舷側砲火ヲ具備スルト共ニ、適應ナル舷側砲火ノ準備ナカル可ラス。然ラサレハ敵ハ其長所ニ賴リ艦尾砲擊ヲ以テ我ヲ迫撃スルナラム。又水雷艇攻撃ハ艦首ヨリ之ヲ擊退セサル可ラサルコトノ多キ者ナリ。

形勢既ニ斯ノ如クナルヲ以テ、如何ナル司令長官ヲシテ親カラ其麾下ノ戰艦ヲ選マシムルモ、舷側砲火ノ優ナラサル戰艦、又ハ其効力ノ最モ顯著ナルヘキ數多ノ速射砲ヲ利用スルヲ得サルカ如キ戰艦ハ、蓋シ之ヲ其戰列中ニ置クヲ喜ハサルヘシ。然レトモ造艦計畫ノ如キハ、多少其敵國ノ戰艦構造如何ニ因リテ左右セラルル者ナリ。吾人ハ佛國ノ戰艦ヲ閱スルニ、千八百八十年ヨリ同九十年ニ至ル迄ハ、主トシテ優勢ナル舷側砲火ヲ規畫セシ傾向アリシコトノ尙英國ニ異ナラサルヲ知得スルナリ。而シテ其後英國ニ於テハ艦尾砲火ニ留意セサルニ、佛國ニ於テ特ニ艦尾砲火ニ重キヲ置キシハ亦掩フ可ラサルノ事實ナリ。是ニ依テ之ヲ觀レハ、佛艦隊ハ單橫陣ニ據リ艦尾砲火ヲ以テ戰ハントスルモノノ如シ。此作戰法ニ據レハ、佛國ノ甲鐵艦マゼンタ號カルノ一號ノ如キ者ヲ以テ其後ノ製造ニ係ル我英國ノ戰艦艦ニ對比スルトキハ、佛艦ノ三重砲ヲ以テ、英艦ノ二重砲ニ對抗スルノ比ナリ。然ルニ爾後佛國ハ、其重砲ノ舷側砲火ノ計畫ニ於テハ、遂ニ我英國ニ仿フテ其最新式セントルイ級ノ戰艦ヲ製造スルニ至レリ。是ニ於テ乎吾人ハ佛國ノ意志ノ在ル所ヲ知ルニ苦ムナリ。

艦尾砲火ヲ以テ戰闘ヲ開始スルトキハ、佛艦隊ハ必ス單橫陣ヲ張リテ我英艦隊ニ向ヒ、次テ艦尾砲擊ニ便センタメ退陣スルニ至ルヘシ。往時ニ在リテ風向ノ運動ニ關セシハ、尙當今ノ速力ニ於ケルカ如シ。



橫陣及凸梯陣

我速力ハ彼レニ優ルヲ以テ彼ノ退クヲ追壓スルハ容易ナルノミ。我艦隊若シ縱陣ヲ以テ進ムトキハ、其嚮導艦ハ敵ノ集中砲火ヲ蒙ルノ不利アルヲ以テ、敵ヲ追撃スルニハ自カラ橫陣ノ利ニ賴ルニ至ラントス、若シ我艦隊ニシテ、二列ノ小隊縱陣ヲ以テ敵ヲ衝ン平、各小隊ヲ以テ敵ノ左右翼ニ迫ルモ、敵ハ汽力ヲ利シ直チニ我一小隊ニ攙進シテ我片腕ヲ困蹙セントスルヤ知ルヘキナリ。斯ノ如キ時ニ際シ、我巡洋艦支隊ニシテ、敵ノ翼端ヲ追撃スルトキハ、必ラス敵ノ一艦ヲ破ルヲ得ン。然ルトキハ敵ノ他艦ハ、之ヲ救ハンカタメニ大ニ其攻撃力ヲ喪失セサルヲ得ス。我巡洋艦支隊ヲ以テ、敵ノ戰鬪艦ヲ破ル或ハ襲撃少シトスルモ、我強勢ナル一等巡洋艦ハ、是レヲ爲ス固ヨリ難キニアラサルナリ。我エドガー號バワフル號ノ如キ高速力ヲ以テ敵ノ翼端ニ乘スルトキハ、敵ノ陣形ヲ變シテ我ニ攙集スルニ先チ、之ヲ壓倒シ之ヲ通過スル敢テ難カラサルヘキヲ信スルナリ。

橫陣ハ、八點ノ針路變換ニ依リ、直ニ縱陣ニ變スヘキナリ。然レモ橫陣ハ其陣ニ特有ノ利ハ、一モアルコトナクシテ、其上ニ單縱陣ノ不利ヲ悉ク兼有スルナリ。單縱陣ノ利ハ、悉ク其舷側砲火ヲ用フルヲ得ルト、諸艦ヲシテ悉ク其嚮導者ノ運動ニ遵ハシムルヲ得ルトニアリ。其陣形ノ單一ニシテ了會シ易キト、之ヲ保持スルニ難カラサルトニ至テハ、遠ク他陣形ノ及ハサル所ナリ。加之敵ノ標的トナルヘキ方面ノ特ニ少ナキハ、特ニ又此陣形ノ一利トスル所ナリ。蓋シ射撃ノ中算少ナキハ、左右ノ偏仄ヨリモ、俯仰ノ誤差ニ多キモノナリ。即チ發射ノ彈丸ニ標的ノ左右ニ來ル者少ナクシテ、俯仰ノ微差ニ因リ標的ヲ超過シ去ル者ノ特ニ多キヲ以テ之ヲ徵スルニ足ルナリ。故ヲ以テ敵艦ノ艦上ニ落ル者ハ、標的の面六十尺乃至八十尺ノ舷側ヲ經テ來ル者至テ稀レニシテ、三百尺乃至三百八十尺ノ標的の面アル艙艙方向ヨリ到ル者

特ニ多シト知ルヘシ。吾人ノ單縱陣ヲ以テ標的の面ヲ現スル少ナシト謂ヒシハ是ヲ以テナリ。艙艙方面ノ數多ノ敵彈ヲ受クルヤ前述ノ如シ、唯甲鐵ハ艙艙兩端ニ至テ斜角特ニ著シキヲ以テ、彈丸ノ觸撃スル者多クハ警過スルヤ知ルヘキノミ。然レモ此得ハ固ヨリ以テ他ノ失ヲ償フニ足ラス。即チ戰ヒノ目的ノ彈ヲ注射スルニアリテ之ヲ逃避スルニアラサルヤ論ヲ俟タサルカ故ニ艙艙方向ヲシテ方面廣キ敵ニ暴露スルハ、到底其利ニ非ラサルナリ。

群隊陣

第三ノ陣形ハ即チリッッサノ海戰ニ於テテグットフ氏ノ採用セシ凸梯陣是レナリ。此陣形ニ在リテハ、其舷側砲、艦首砲ヲ用フル自在ナリト雖モ、鬪戰混鬪ノ餘、我艦ヲ砲撃スルノ危險アリ。又陣形ヲ保ツニ便ナラサル所アリ。蓋シ此等ノ患者ハ、其レ鱗次縱陣ナル乎、即チ艦首追撃砲ヲ用フルヲ得ルノ利アリ、然レモ未タ我艦ニ不時ノ災害ヲ來スナキヲ保スヘカラス。上述シタル諸陣形中ニ就キテ之ヲ考フルニ、最良ノ戰鬪陣形ハ、蓋シ單縱陣ノ兩端ヲ掩護スルニ、二三ノ戰艦ヲ以テシタルモノニ若ク者ナルヘシ。其嚮導艦ヲ掩護スル者ニ、諸艦中最モ優力ナル艦首砲ヲ備ヘサル可ラサルハ、猶艦艦ヲ擁護スル者ニ最モ優勢ナル艦尾砲火ヲ有セシメサル可ラサルカ如シ。

三艦相鼎峙シ、相救援シテ、協同運動ヲナスヘキ群隊ハ、數年前マテハ戰鬪陣形トシテ大ニ人ノ稱讚セシ所ナリシニ、爾來是レヲ主張スル者甚タ稀少ナルニ至レリ。群隊指揮官ハ、司令長官ト艦長トノ間ニ於ケル、新參ノ干涉者ニシテ、實ニ無用ノ干涉者ナリト謂フヘシ。又群隊ヲ合シテ如何ナル序列ヲ編スルモ、群隊中ノ各艦ハ、各其隣保ヲ救援セサル可ラサルヲ以テ、甲ト乙ト相據リテ丙ヲ掩護スルモ、攻防上何ノ利アルカヲ知ルニ苦ムナリ。又群隊ハ、何故ニ二艦或ハ四艦ヲ用ヒスシテ三艦ヲ用ヒサルヲ得サル



乎、三ナル數ニ如何ナル怪力アル乎、吾人ハ其理由ノ存スル所ヲ知ルヲ得サルナリ。群隊ヲ主張スル者ハ謂フ、斯ノ如キ陣形ニ在リテハ、同形式ノ戰艦相戮力シテ運動スルノ利アリ。而シテ同形式ノ戰艦ハ、多クハ兩三個ニ過キサル者ナリト。然レモ戰列中ニ形式ノ相類似スル戰艦ノ多キハ、日常吾人ノ檢知スル所ニシテ、戰艦ニ鮮少ノ構造上ノ差アルモ、以テ陣形ノ一變ヲ要セサルハ固ナリ。戰艦ノ形式ニ差異アルハ其用途ニ大ナル差異アルヲ以テナリ。差異アル戰艦ハ宜シク隔絶ノ位置ニ在ルヘシ、固ヨリ相混同スルヲ要セサルナリ。艦隊或ハ支隊ノ細別トシテ群隊ヲ用フ、吾人ハ少シモ其必要アルヲ感セサルナリ。况ンヤ群隊陣形ニハ、多ク敵ニ好標的ヲ現スルノ失アルニ於テオヤ。

方陣即チ戰艦ヲ方形或ハ菱形ニ配列シタル陣形ハ、亦群隊ト同シク駁論ノアル所ナリ。是陣形ハ、速射砲ニ最モ良好ノ標的ヲ現シ、陣形ヲ保持スル亦容易ナラス。加之常ニ數方面ヨリ敵ノ砲火ヲ蒙ラサルヲ得サルノ失アル者ナリ。又斯ノ如キ錯雜ノ陣形ニ在リテハ、砲手ノ僚艦ヲ砲撃スル危險ハ、到底免ル可ラサル者ナリ。モンテシヤント氏等ノ誇稱セル、六艦ヲ三角形ニ排列スルノ陣形モ亦、同一ノ駁論ヲ免レサルモノナリ。

縱陣、縱陣ノ利

單縱陣ハ、敵ニシテ遁走セサル間ハ、最良ノ陣形タルヤ疑ナキナリ。巡航中基本陣形トシテ終始慣用スル者モ亦此ノ單縱陣ナリ。戰鬪ノ際之ヲ採用スレハ轉瞬ノ間ニ陣形ノ變換ヲ要スルカ如キコトナカルヘシ。舷側砲火ノ自在ナル僚艦ヲ砲撃スルノ患ナキコト、位置ヲ保持スルノ容易ナル、信號ノ必要少ナクシテ是レヲ用ヒサルモ殆ント事ヲ辨セサルカ如キコトナキ等ハ、特ニ此陣形ノ他ニ超絶スル所ニシテ世ニ復タ斯クノ如ク効益ノ多クシテ弊害ノ少ナキ陣形ハ無ルヘシ。若シ艦首砲火ノ利ニ據ラント欲セハ、

宜シク艦首砲力ノ優逸ナル戰艦ヲ以テ、其先鋒ニ策應スヘシ。或ハ先鋒ニアル二三ノ戰艦ヲ稍々鱗次形ニスルモ可ナリ。且ツ往時ヨリ幾十回ノ實歴經驗ニ徴シテ、其最モ戰陣ニ適スル陣形ナルコトヲ證シ得ルヲミレハ、吾人敢テ之ニ多言スルヲ要セサルナリ。蓋シ細目末節ハ世ヲ追フテ變移スヘシト雖モ、其大綱要領ノ終始更革セサルハ、天地ノ通理ナリ。古人ノ特ニ前後貫射ノ災害ヲ畏レシヲ視テ、現今ニ於テモ尙其災害ノ恐ル可キヲ慮リナカラ、其豫防ヲ盡ササルカ如キハ、智者ノ所爲ニアラサルナリ。

以上論述セシ所ニ據レハ、單縱陣ハ、智慮周到ナル司令長官ノ喜ンテ採用スル所ニシテ、特種ノ諸艦ハ其序列ニ隨ヒ各別ニ其隊ヲナシテ相紛亂スルコトナク、以テ各其能ヲ盡スヲ得ルアラントス。乃チ其梗概ヲ舉ルトキハ、主戰艦隊ハ倏忽進襲シテ三千碼ヨリ一千碼ニ迫リ以テ敵ノ本據ヲ衝クヘシ。豫備戰艦隊ハ、其ノ下風側ニ在リテ、水雷砲艦隊ハ又其下風側ニ在ルヘシ。二等巡洋艦ハ、長距離ニ在リテ進撃スルモ二千碼ノ内ニ入ルヲ許サス。二等巡洋艦ハ、尙遠距離ニ在ルヘキ者ナラム。巡洋艦ノ主トスル所ハ、敵ヲシテ顧慮周章セシムルニアリ。其速力ノ敵ニ優ルトキハ、敵ノ周圍ヲ遶ルモ可ナリ、或ハ敵ト驪ヲ駢ヘテ馳驅スルモ可ナリ。蓋シ海戰ハ今後モ尙、航走中ニ起ルコト多キヲ以テ、彼我共ニ運動シ俱ニ急速運動ヲ執ルヤ知ルヘキノミ。此際ニ當リテ我僚艦ヲシテ砲發スルヲ得サラシムルカ如キ運動ヲナス者ハ、自殺ヲ遂クル者ナリ。戰鬪ノ開始ニ當リテハ、彼我俱ニ其堪能ヲ信スル所ノ最高速力ヲ用ヒ、只絶對ノ變ニ應セムタメ一二節ノ餘裕ヲ存スルニ過サルヘシ。戰鬪ノ進行スルニ隨ヒ多少ノ損害ヲ蒙ルトキハ、速力ハ從フテ減少セサルヲ得ス。損害ノ特ニ甚シキ戰艦ノ、戰列ヲ脱シテ豫備艦隊ヨリ其位置ヲ補充スルハ、其常規ナルヘシ。彼我同方ニ向ヒ相駢馳スルトキ、戰列ヲ離レタル破艦ハ、其ニ後陣ニ委



棄スル所トナリテ、水雷艇ノ獵獲物トナルニ至ラントス。斯ノ如キ破艦ノ生スルトキハ、我ヨリ水雷艇ヲ縱チテ之ヲ攻撃セハ、敵ハ是レヲ防クニ亦水雷艇ヲ以テシ、其結局特ニ慘烈ナル争鬪ヲ惹起スニ至ルヘシ。若シ彼我艦隊ヲ以テ之ヲ争フトキハ、猶カルセテ予號ノアラバマ號ニ於ルカ如ク、同一ノ中心ヲ以テ彼我相互ニ周轉スルニ終ラサルヲ得サルナルヘシ。之ヲ要スルニ、戰ノ未タ關ハナラサルヤ、艦隊、艦隊ト相對戰シ、單艦孤立ノ單艦ヲ求メテ雌雄ヲ決セントスルカ如キコトハナカルヘシ。乃チ此時ニ當リテハ彼我司令長官ノ意ノ各々其全力ヲ擧ケテ敵ノ一部ニ乗セントスルニアルヤ知ルヘキナリ。往時我英國艦隊ノ敵艦隊ニ於ケルヤ、唯敵ノ戰列ヲ破毀蹂躪スルニ止マリシノミ。而シテ當時ノ敵タルヤ、其氣力精神ニハ實ニ當ル可ラサル所アリシト雖モ、其熟練ニ至リテハ固ヨリ我敵ニアラザリキ。然レモ近時ニ至リテハ、敵ノ艦隊モ悉ク快捷ナル戰艦ヨリ成リ、汽力ノ利用ニ依リテ其進退操縱皆意ノ如クナラサルナキナリ。故ニ是時ニ當リ、尙我全力ヲ以テ敵ノ一部ニ乗ズルノ慣用手段ニ出テントスルハ、極メテ其困難ナルヲ覺ユルナリ。蓋シ戰捷ノ遂ニ過擧失策最モ少ナキ者ニ歸到スルニ至ラム乎、過失ノ生出セサルトキノ戰鬪ハ、唯一様ノ勢力ヲ以テ香餅戲ヲ演出スルニ過スシテ、其輸贏甚タ判チ難シト雖モ、世亦此怪事ノ現出スルヲ想見スルニ及ハザルベシ。惟フニ艦隊運動ノ整齊ニシテ快速ナルコト、大艦隊ノ操縦自在ナルコト、咄嗟ノ間ニ陣形ヲ變化セシムルコト、意想外ノ所ニ艦隊ヲ出沒セシムルコト等ハ、汽力ヲ利用スレハ復タ難事ニツラス。故ニ艦隊運動ニ熟達スル者ハ、一ノ陣形ニ據リテ敵ヲ一方ニ攻撃シ、機ヲ見テ陣形ヲ變シ高速力ヲ用ヒテ忽チ敵ヲ他ノ一方ニ追撃セムトスルモ、其意ノ欲スル所ニ從フヲ得ヘシ。敵ニシテ若シ運動ニ諳熟セス、其各艦定位ヲ保持スル能ハサルカ如キアラム乎、其陣形ハ

忽チ錯亂シ、彼艦ヲ以テ彼艦ノ砲火ヲ遮斷スルニ至リ、交戰ニ及ハスシテ敗北ヲ現スヘシ。故ニ艦隊運動ナル者ハ、砲火ノ開始ニ先チテ始マリ、砲戰ノ後ニ至リ尙其巧拙ニ因リテ全局ノ勝敗ヲ判スル者ナリ。戰艦ノ操縦巧妙ニシテ、陣形單簡ナルニアラサレハ、砲火中ニ馳驅スル艦隊ノ將卒ハ、其激昂疲困俱ニ想像ノ外ニアルヲ以テ、動モスレハ衝突ノ患ナキ能ハス、又風向ノ利ニ據ルトキハ、煤烟、砲烟皆敵眼ヲ盲スルニ足リ、日光ノ便ニ據ルトキハ、敵ノ砲手ヲ眩目セシムルニ足ルナリ。彼我俱ニ混戰ヲ好マサレハ、勢ヒ遠距離ノ砲戰トナリ、彼我共ニ多クノ災害ヲ受クヘキモ、顯著ナル勝敗ハ蓋シ之ヲ現ハサルナルヘシ。

敵影ノ眼界ニ入ルニ當リ、我艦隊ヲシテ敵ヲ追撃セシメサラムトスルニハ、特ニ嚴肅ナル紀律ト深沈ナル克己心トヲ要ス。致遠艦長鄧氏ハ、自カラ撞角ヲ利用セント欲シテ遂ニ戰列ヲ脱セリ。世斯ノ如キ忠順ナラサル艦長少シトセス。蓋シ接戰ハ、長時間ニ涉ラサルヲ以テ、下士卒ノ疲勞スルコトハ、却テ甚シカラサルナラム。

鴨綠江外ノ海戰ハ、甲鐵艦ノ長距離砲擊ニ對スル抵抗力ノ特ニ較著ナルヲ證明シテ餘蘊ナシト謂フヘシ。長距離砲戰ヲ維持セント欲セハ、勉メテ砲手ニ射擊命令ヲ嚴守セシメ、以テ貴重ナル彈藥ノ徒費ヲ防カサル可ラス。乃チ此時ニ當リテ使用スヘキ者ハ、速射砲ト重砲トノミニシテ、小形彈丸ノ如キ遠距離ニハ効用ノ少ナキモノナルヲ以テ、後機ヲ待タシメサル可ラス。長距離ニ在リテハ甲鐵ヲ穿貫セントスルモ、到底徒勞ニ屬スヘキヲ以テ通常榴彈ヲ採用スヘシ。而シ



撞角ノ價値

テ艦隊ノ接近シタルトキニ通常榴彈ト穿甲彈トヲ交々用フルヲ利アリトス。

初期ノ長距離砲戰ハ、彼我ノ一方、災害特ニ甚シキニ至ル乎、或ハ彼我俱ニ稍彈丸ノ缺乏ヲ告クルニ至テ、終局スヘシ。蓋シ災害特ニ甚シキ者ハ、混闘ニ乘シテ其失ヲ償ハント欲シ、彈丸ノ缺乏ハ、彼我共ニ一舉シテ雌雄ヲ決セントスルノ念ヲ起サシメ、俱ニ與ニ長距離砲戰ヲ變シテ舷舷相接舳舻相摩ノ追撃トナスニ至ルヘシ。戰ヒニ利アラサル者ニシテ或ハ戰場ヲ退ソカム乎、然ルトキハ其破損艦船タルヤ、捕獲セラルルニアラサレハ必ラス壞滅ニ歸スヘキノミ。

現今ニ至ル迄「撞角ト水雷トハ、戰艦ニ用フヘキ者ニアラス」ト説ク者多キカ如ク、特ニ撞角ハ、數回ノ實驗ニ因リ、用法ノ最モ難澁ナル武器タルコトヲ知得スヘキナリ。

レエルド、クロース氏ノ説ニ據レハ、撞角ヲ試用セントセシ實例、七十四回ノ中二十回ハ、皆使用者ヲシテ非常ノ災害ヲ受セシメ、或ハ爲メニ廢艦トナリ甚シキハ遂ニ沈没スルニ至レリ。汽力ヲ存シテ尙運轉ノ餘地ヲ有スル者ニ對シ、撞角ヲ用ヒテ甚シキ災害ヲ蒙ラシメタル先例ハ、唯一回アルノミナリト云フ。

撞角ヲ利用セムカタメニ敵艦ヲ衝突セントスルニハ、敵艦ト觸接セサル可ラス。敵艦ニシテ其機關尙破毀セシテ運轉ノ地歩尙存スルトキハ、斯ノ如キ觸接ノ困難ナルハ、既往ノ例ニ徴シテ明瞭ナリ。蓋シ運動中ノ戰艦ニ對シテ撞角ヲ試ムルハ、往昔ヨリ至難トスル所ニシテ、偶然ニ起リシ者ノ外、其實例甚タ少ナシ。メリマック號ノカムベルランド號ヲ衝突セシハ、其碇泊中ニシテフェルヂナンド號ノレ、デ、イタリヤ號ヲ衝殺セシモ亦、其停止中ニ乘セシナリ。米國內亂中、衝突ヲ企シ者ハ實ニ多カリシモ、其

功ヲ奏セシ者ハ、一二ニ過キサリシト云フ。蓋シ撞角ヲ用ヒントスレハ、自カラ混闘ニ陥ラサルヲ得ス。是レ大ニ戰術ヲ主トスル者ノ喜ハサル所ニシテ、高速力中ニアル敵艦ニ衝突スルトキハ、我艦ハ不測ノ危害ニ陥ル者ナリ。カンベルダウン號ノヴィクトリヤ號ニ障觸スルヤ、ヴィクトリヤ號ノ速力ハ僅カニ五節ニ過キサリシニ、カンベルダウン號ハ尙ホ彼レカ如キ大損傷ヲ蒙レリ。コーニンク、ウイルヘルム號ハ十節ヲ以テ航走シ居ルグロツサル、カルフォルニア號ニ衝突シ、其錨首材拗曲シテ用ヲナササルニ至レリ。唯アイロン、ヂューク號ノ、自カラ甚シキ損傷ヲ蒙ラスシテ、運轉中ノ船ヲ衝突シ得ルアルノミ。以上ノ各實驗ニ徴スルモ、尙撞角ヲ以テ大打撃ヲ加フルハ、難中ノ難事ニシテ、非常ノ經驗實踐ヲ要スル者タルヲ知ルヘキナリ。之ヲ要スルニ、艦隊ノ肉薄接戰スルニ至ルトキハ、彈丸ノ急霰特ニ慘烈ヲ極メ、司令塔ノ附近ハ、是レカタメ、拍々鉤々耳ヲ聾スルニ至ラム。此間ニ處シテ錨首ヲ定メ、變動不測ノ小標的ヲ衝カントス。其至難ノ業タル筆舌ヲ待タサル者アリ。彼我ノ速力距離ヲ測リテ衝突ヲ試ムルニ當リ、若シ其推算ニ誤謬アラム乎、忽チ敵ノタメニ衝突セラレントス。假令推算ヲ誤マラストスルモ、尙敵艦ノ水雷ニ中ルノ危険ヲ免カレス。蓋シ水雷ノ戰場ニ進ミ出シヨリ、撞角ノ其後ニ瞻若クササルヲ得サルニ至リシハ、争フ可ラサルノ事實ナラム歟。若シ彼我ノ艦隊舳舻對シテ進撃スルトキハ、衝突ノ機ハ必ラス來ルナルヘシ。此時ニ際シ、彼我ノ司令長官共ニ果敢ナラム乎、相俱ニ衝突ヲ試ミムトスルナム、此時ニ一方ノ艦首甚タ脆弱ニシテ抵抗力ヲ現ハサス衝突ノ勢力ヲ受クテ直チニ破壞セム乎、即チ他ノ一方ニ事ナカルヘキモ、然ラサルトハ則チ彼我俱ニ沈没スルヤ知ルヘキノミ。然レモ斯ノ如キハ蓋シ世ニ多ク有ラサルコトナルヘシ、即チ其思慮アル方ニ於テ轉瞬ノ際ニ舵ヲ轉シテ衝突ヲ避ルコト、尙ブツ



カナン氏ノモービル河上ニ於ケルカ如クナランノミ。  
水雷ハ、其使途ノ狹隘ナルヲ、撞角ノ如ク甚シカラスト雖モ、其有効範圍ノ外ニ出テテ動作スヘカラサルハ、相似タル者ナリ。

卷末第二十五表ニ、水雷使用ノ現今ニ至ルマテノ實例ヲ悉ク掲載セリ。該表ノ結果ニ據ルトキハ、水雷ハ運動中ノ船艦ニハ、其効用ナキ者ノ如シ。然レモ撞角ニ反シ此利器ハ其使用未タ多カラサルカ故ニ、今之ニ完全ナル歸納説ヲ建ルハ、尙早キニ過ク、况ンヤ其進歩改良年ヲ進フテ面目ヲ改ムル者ナルニ於テオヤ。

艦隊ノ遠距離ニ在リテ戰フ間ハ、水雷ヲ用フルヲ得ス、稍接戦ニ至ルモ其効用尙疑シキ者アリ、乃チ命中セム乎、眞ニ恐怖スヘキ利器ナリト雖モ、之ヲシテ命中セシメントスルハ、容易ノ業ニアラサルナリ。戰艦高速力ヲ以テ進航スルモ、水中發射管ヲ用ヒテ、魚形水雷ヲ發射スルトキハ、其頭部、艦側ヲ出ルノ際偏曲セラルルノ危険アリ。或ハ然ラサルモ、屈曲度大ニシテ命中ノ成算甚タ少ナカラム。又水雷ヲ發射シテ其水雷ノ我艦ノ螺旋ニ拘束セシ實例甚タ多シ。演習ノ際ナラムニハ、其結果意トスルニ足ラスト雖モ、其頭部若シ爆發物ヲ有セム乎、其災害計ル可ラサル者アラム、其背後ニ在ル戰艦ノ危険ハ尙是レヨリ甚シキ者アルナリ。

近來斯ノ如キ困難ハ大ニ減少セリ、後來愈危險ノ度ヲ低減スルハ、蓋シ期シテ待ツヘキナリ。屈曲ヲ起ス主因ハ、第一船艦ノ速力ナリ、而シテ是ハ測算シテ修正ヲ施スニ難カラス。第二船艦ノ傾斜ナリ、是レハ舵ヲ使用スルノ多少ト海波ノ状態ニ關スルヲ以テ、容易ニ知悉スヘカラサル者ナリ。

水雷ノ使用ヲ非トスル論者ハ、左ノ如ク其不利ヲ列舉セリ曰ク、(一)構造ノ煩雜、(二)使用範圍ノ狹隘、(三)不意ニ爆發セシトキノ慘害、(四)平時裝藥セサル水雷ノ過失。

水上發射管ノ裝甲ヲ以テ防護セサル者ハ、甚タ危険ニシテ殆ント戰艦ニ用フヘカラス。而シテ屈曲度ノ大ナルハ、曾テ水中發射管ニ少カラサル所ナリ。

鴨綠江ノ海戰ニ於テ、支那人ハ、既ニ裝填セシ魚形水雷ノ爆發ヲ慮リテ、之ヲ撤去シタリト云フ。然レモマクキップイン少佐(米國ノ士官ニシテ當時鎮遠ニ在リシ人)ハ、其事實ニアラサルヲ主張セリ。加之水雷ノ發射管ヲ離レテ直進スルトキハ、其進路ハ水面上ヨリ歷々駭別スヘシ。故ニ其襲撃ヲ受クタル戰艦ニシテ、敏捷ニ運動セムニハ、或ハ之ヲ避ルヲ得ム。然リト雖モ保氏水雷ノ年一年ニ改良ニ趣クハ疑フ可ラサルノ事實ナリ、故ニ該水雷ニシテ完全ノ域ニ進ムトキハ、猶其現今ノ大砲ヲ使用スルカ如キニ至ラムコト推シテ知ルヘシ。唯昨今ノ状態固ヨリ斯ノ如キ完全ニ至ラサルヲ以テ、亂軍中、若クハ砲戰ノ末期ニアラサレハ、大戰艦中ニ於テハ使用スヘカラサル者ト知ラル。若シ之ヲ撞角攻撃ノ防禦ニ供セムニハ、蓋シ必ス其最妙用ヲ現ハスナラムト信ス。然ラサレハ、水雷特種ノ戰艦、或ハ水雷艦ニ使用スルニ若カサルナリ。

水雷ノ一種ニシテ、將サニ後來ノ艦隊戰艦ニ、一種ノ妙技ヲ演出セントスル者アリ。ブレナン式ノルデンプェルト式ノ如キ摸型ノ制御水雷是レナリ。現今ニ於テハ、其進歩ノ程度尙低シト雖モ、長距離ヨリ操舵シ願指スルヲ得ヘキ一種ノ水雷ニシテ、後來一世ヲ震動スルノ利器トナルヘキハ蓋シ疑ヒテ容レサル所ナリ。其至難ノ業タルハ固ヨリナリ。停止ノ船艦ヨリ停止ノ敵ニ向フテ此水雷ヲ發縱スル、尙容易ナ



戰艦ノ裝  
帆諸具

ラサルモノアリ。彼我共ニ高速力ヲ以テ運動スルニ當リ、是ヲ發縱シテ指示意ノ如クナランコトヲ欲ス、其至難タル知ルヘキナリ。一二ノ佛國巡洋艦ニハ、既ニ此制御水雷ヲ備フル者アリ。然レモ實戰ニ是レヲ利用セントスルニハ、蓋シ之カ爲メニ特種ノ船艇ヲ要スルナラント信ス。

長距離砲戰ノ末期ハ、即チ接戰ノ初期ナリ。蓋シ其距離ニシテ六百乃至七百碼ニ短縮スルニ至ラム乎、驍勇ナル艦長ナラムニハ則チ一撃以テ勝ヲ決セント直チニ襲來又ハ進撃スルナラム。此期ヲ即チ海戰中ノ最モ慘烈ナル者トス。此時ニ至ルマテハ、戰艦ノ致命部ニ及ホス災害ハ、實ニ尙甚シキニ至ラサルナリ。然レトモ其艦内ノ諸部及秩序ニハ大ニ禍害混亂ヲ受クルヤ知ルヘキナリ。鴨綠江ノ事ニ依リテ之ヲ考フルニ、速射砲ノ連發ハ、長距離ニ在リテハ、水線部ニ甚シキ禍害ヲ加ヘサル者ノ如シ。彈丸ノ急霰ノ如ク降り彈丸ノ或ハ水ヲ掠メテ踴超シ艦内ニ集合スルコト水煙ノ堤上ヲ拂フカ如キ諸部ハ、是レ兵裝櫓、烟突、通風器、海圖室、艦橋、端舟、檣樓ノ如キ、艦内上部ノ構造物及被覆物ナルヘシ。戰艦ハ唯平時ニ用ヲナスノミニシテ戰時少シモ効ナキ諸雜具ヲ捆載堆積スルヲ以テ、其損害ノ多キヲ推シテ知ルヘキナリ。櫓、桁、靜動索ノ如キ、裝帆諸具ハ、如何處置スヘキヤ、是レニ關シ世ニ種々ノ論說アリ。

是ノ如キ裝帆諸具ヲ置クトキハ、大ニ戰艦準備ノ困難ヲ來ス者ナリ。米國海軍少佐心得ウエンライト氏ノ言ニ從ヘハ、英國地中海艦隊ノ戰艦中、戰艦準備ニ二十四時間ヲ費セシ者アリト。大凡彼我利用スヘキ時間ノ多少ハ、以テ其戰艦ノ戰術如何ヲ決スル者ニシテ、最モ重要ナル者ナリ。佛國海軍ノ訓令ニ據ルトキハ、諸端舟ハ戰艦準備ノ際海水ヲ滿シ、又彈ニ中リテ破碎屑片ノ飛散スルヲ防クタメ適當ノ材料ヲ以テ之ヲ圍繞スト云フ。艦用水雷艇ハ若シ時間ノ餘裕アルトキハ、艦外ニ下スヲ便トス。

長距離砲  
戰ノ効力

戰艦ノ戰艦準備ヲナスニ當リ、諸端艇ハ甲板下ニ納ムヘカラザルヲ以テ、之ヲ上部ニ暴露セシメサル可ラス。之ヲ以テ多クハ敵彈ノタメニ破壊シ、其屑片飛散シテ大ニ禍害ヲナシ、又火災ヲ誘起スル者ナリ。木製櫓梯、食卓椅子、及ヒ下甲板以下ニ散在スル諸雜具モ、亦等シク危險ヲ醸ス者ニシテ、其所置特ニ煩累ヲ極ムル者ナリ。日本海軍々々ハ、是等ノ雜具ナキモ用ヲ辨スルニ足ルナリ、是ヲ携帶セザリシハ皆人ノ稱讚スル所ナレモ、之ヲ艦外ニ委棄スルノ必要アルヤ否ヤ、吾人ハ尙之ニ疑論ナキ能ハサルナリ。諸端舟ハ、最モ必要ナル者一二隻ヲ存シ、餘ハ悉ク揚陸スヘシトノ良考案アリ。佛國海軍ニ於テハ、此所置ヲ用ヒントスト云フ。蓋シ此考案ニハ、世ニ同意ヲ表スル者多カルヘシ。救助艇ハ戰艦中之ヲ準備スルノ必要ナキナリ。斯ノ如キハ宜シク白旗ヲ掲ケ、或ハ赤十字社旗ヲ標スル特種ノ艦船ニ委任スヘシ。然レモ、救難裝置ハ、大艦ニ在リテハ應ニ具備スヘキ者ニシテ、其材料ニハ可成燃エ易カラサル物ヲ用フルヲ良トス。斯ノ如ク艦上ノ木具ヲ悉ク撤去スルトキハ、溺者ニ投スヘキ浮泛物ハ、一片一箇モ遺存スル者ナカラントス。護謨製ノ帶囊ニ空氣ヲ充タシ、其膨脹ニ依リテ浮泛力ヲ生スル裝置ハ、全舩ニ於テ甚タ有効ナル者ノ如シ。是帶囊ハ甚タ輕便ナルヲ以テ、艦員ヲシテ悉ク携帶セシメ難キニアラス。事ニ因リテ水ニ陥リシ者ハ、唯自カラ氣ヲ嘘シテ水上ニ浮泛シ、以テ特種救難船艇ノ來ルヲ待ツヘキノミ。吾人ハ此法ノ弘布セラレコトヲ希望スル者ナリ。

以上論述セシカ如ク、砲戰ノ初期ニ於テ、災害ノ最モ多キハ、上甲板ナルヲ以テ、務メテ其害ヲ少ナカラシメンカタメ、諸般ノ準備ヲナシテ之ヲ豫防セサル可ラス。烟突ノ周圍ハ、石炭囊ヲ堆積シ、速射砲ノ近邊ハ、被覆ヲ廻ラシ、以テ屑片飛散ノ害ヲ防クヲ要ス。司令塔及ヒ命令傳達ヲ司ル局所モ、亦防護



ヲ忽カセニスヘカラス。斯ノ如クニシテ砲火ノ災害ハ大ニ減少スルヲ得ヘシト雖モ、尙動モスレハ大害ヲ惹起スノ恐レアリ。爆發力烈シキ榴彈ハ其形甚タ小ナルモ、非裝甲部ヲ打ツトハ、其慘害尙恐怖スヘキ者アリ。舷側ニ鑽開セラルル者ハ巨孔ナリ、上甲板上四方ニ迸射飛來スル者ハ、本部ノ破片碎屑及彈片ナリ、内ヨリ應スル者ハ、逼塞部ヲ潛行シタル榴彈ナリ、而シテ所々ニ散在スル木材ニシテ沾濡セサル者ハ、榴彈ノ破裂ト共ニ諸所ニ火災ヲ起スナラム。烟突及通風器ハ、其轉倒スルニ至ルマテ打撃ヲ蒙リ、木片鐵屑ハ點點堆積シテ、其裝甲甲板ト同一ノ高サニ交叉セル防護格子ヲ填塞スルニ至ルヘシ。是カ爲メ大ニ通風ノ便テ失シ、機關ノ運轉ヲ阻格スルヲ鮮小ニアラサルナリ。通風器全ク閉塞スルトキハ汽罐室ヘ通スル空氣ノ供給忽チ阻絶シ機關兵ノ苦難名狀スヘカラサルニ至ラントス。是ニ於テ乎彼等ハ焦熱中ニ彷徨シ、醜穢稀薄ノ空氣ニ噉嚼シテ昏倒悶絶スルノ外他途ナク、從テテ汽罐ノ火力漸ク減少シ、尋テ汽壓ニ減少ヲ來タスヘシ。鴨綠江ノ役、斯ノ如キ禍害ノ生シテ聞カス。蓋シ此役ニ於テハ砲火ノ慘烈上述ノ如ク甚シカラサリシカノ如シト雖モ、熟練深沈ナル泰西人ノ砲手ヲシテ、其長技ヲ恣ニセシメタラムニハ、慘劇ノ演出眞ニ上述ノ如キ者アリシナラム。夫レ砲彈ノ烟突及通風器ニ及ホス危害ノ大ナルヤ實ニ斯ノ如シ。然ルニ未タ其上甲板迄ノ高サ丈ダニ裝甲ヲ以テ防護スルノ議アラサス、豈ニ怪ムヘキノ甚シキ者ニアラサヤ。米國ノモニトル形戰艦ハ、皆一樣ノ裝甲烟突ヲ備ヘ居ルナリ。若シ夫レ甲板間ニ於テ烟突ノ破損スルコトアラム乎、啻ニ火災ヲ起スノ危險アルニ止ドマラス烟燭四方ニ散シテ其混亂紛擾ヲ極ムルコト實ニ測ル可ラサルニ至ラム、乃チ斯ノ如キ時ニハ不燃材料ヲ以テ應急防護ヲナス「最モ必要ナルヘシ。裝甲防護ニシテ尙配賦ノ餘裕アラン乎、吾人ハ則チ之ヲ以テ其重砲ノ脚下ニ防

護ナキアミラルデニール號レナウン號ノ如キ者ヲシテ其露砲臺ノ缺點ヲ補綴セシムルヲ得策トスルナリ。

アドミラル級ノ戰艦ニ在リテハ、露砲臺ノ踵下ヲ以テ石炭庫ニ充テリ。此級ノ戰艦ニ於テ若シ其重砲下部ノ諸鐵甚シク損傷セム乎、露砲臺ハ其重量ヲ支フルニ堪ヘサルガ故ニ、遂ニ墜落シテ艦底ヲ貫カム、故ニ該艦ハ是レカタメ沈没スルニ至ルヘシ。此級戰艦ノ補助十五瓏砲臺モ亦識者ノ注意ヲ要スル者ナリ。吾人ハ米國南北戰爭ノ亂ニ北軍戰艦ガニオレアンス府及モービル河ヲ攻撃スルニ際シ、其艦上ニ沙塚ヲ堆積シテ、敵彈ヲ防キシヲ聞知セリ。當今ニ於テハ、石炭糧食彈藥ノ重量、既ニ艦脚ヲ没スルヲ以テ、沙塚ヲ積載スルガ如キハ其堪フル所ニアラズ、唯斯ノ如キ用ヲ兼シムヘキ者ハ、石炭アルノミ、然レモ尙之ニ疑ナキ能ハス。夫レ新タニ港灣ヲ出タル船隻ハ、石炭ノ積載尙饒裕ナルヲ以テ、應急防禦ノ利ヲ有スルハ勿論ナリ。然レモ之ヲ以テ數百哩ノ進航ヲ爲シ、其燃料ノ大ニ缺乏ヲ告クタル戰艦ニ對照シテ、特異ノ利ヲ專有ストナスハ、果シテ正鵠ヲ得タル者ナルヤ、理論上ヨリスレハ、戰艦ニ在リテハ防禦上ノ用途最モ尠ナキ石炭庫ヨリ使用シ始ムルヤ勿論ナリ。即チ水線附近ノ燃料ノ如キハ、其最モ秘藏スル所ナラム。然レモ特ニ上部ノ貯炭ノミヲ保存シ、其最下艙ノ蓄炭ヲ耗盡スルニ至ラムニハ、忽チ艦ノ復原力ヲ減スルヲ以テ、斯ノ如キ任意ノ使用ハ、實際ニ之ヲ許ササルナリ。若シ時間ニ餘裕ノアルキニハ、海水ヲ艦底ニ引キテ以テ復原力ヲ維持シ、石炭ヲ其利用最モ多キ所ニ轉移スルモ可ナリ。然レモ時限ニハ常ニ人爲ヲ以テ左右ス可ラサルコト多シ、故ニ是亦倚賴スヘキニアラサルナリ。前條ノ事實ニ徴シ、石炭及甲裝ノ相關聯スル價值ヲ考フルニ、石炭ハ其位置ニヨリテ



戰艦中ノ  
火災

戰艦中彈  
丸命中ノ  
比例

大ニ効力ヲ有スト雖也、一タヒ其所ヲ換ヘ、或ハ其天爲ノ用ヲナスキニハ、忽チニシテ其防禦ノ効ヲ失  
スルナリ。故ニ之ヲ以テ爐中ニ投スルモ燃消スヘカラズシテ依然防護ノ効ヲ失ハサル所ノ装甲ニ比スル  
キハ、其利害得失我嗚々ヲ俟タスシテ明ラカナラム。

其戰艦最新式ノ者ニアラサルトキハ、砲戰ノ初期ニ於テ、屢々火災ヲ惹起ス者ナリ。我人ノ確知スルカ如  
ク、鴨綠江及リツサノ役ニ於テ烟燭ノ天ヲ焦セシコハ數回ニ及ヘリ。後來爆發力ノ尙強烈ナル破裂彈ヲ  
用フルニ至ラムニハ、祝融ノ災尙一層甚シキニ至ラムト吾人ハ深ク之ヲ信スルナリ。夫レ火災ハ、其發ス  
ルヤ大ニ艦内ノ操作ヲ妨クル者ナリ、即チ來遠ノ如キハ、機關室ノ温度華氏ノ二百度ニ昇リ、機關爲メ  
ニ灼熔シテ殆ント用フルニ堪ヘサルニ至リシト云フ。又火災ハ、機關部員ヲシテ極難ノ位置ニ陷レシメ、  
危急ノ際、彈藥ノ供給ヲシテ、特ニ困難ナラシムルモノナリ。大凡ソ重砲ノ送彈機ハ、大抵防護ノ裝置  
ヲ有スル者ナレ也、小口徑砲ノ彈藥通路ハ、火災或ハ敵彈ニ對スル防護ノ極メテ薄弱ナルモノナリ。榴  
彈ノ送彈機中ニ在ル時、其機巧中ノ損害、或ハ不慮ノ災ニヨリテ機中ヨリ墜落スルコトアリ、此處ニ備フ  
ルタメ、送彈機ニ自動制輪ヲ裝著セルモノアリ、又此裝置ナキモノアリ、火災ヲ消滅スルタメ、彈丸到  
達ノ虞少ナキ所ニ唧筒ヲ備フルコト、及ヒ防火配置ニ諳熟セシムルコトハ、最モ緊要ノコトナリ。然レ  
モ、治療ハ攝養ニ如カサルヲ以テ、戰艦ノ造作物ニ務メテ木材ヲ使用セサルノ注意ハ、是レ吾人ノ片時  
モ忘ル可ラサルコトナルヘシ。

砲戰ノ初期中ノ彈丸命中ノ數ハ、是亦吾人ノ注意ヲ要スルモノナリ。英國ノ一將官ハ、一海戰中ヲ通算  
シテ其命中ヲ百ニツキ二ノ比ナリト云ヒ、又一記者ハ、此比ヲ以テ低キニ過ルモノトナシ、百ニツキ十

五ノ比ナリト云ヘルガ、鴨綠江ノ役ニ於ケル日本及支那艦隊ノ平均命中數ハ、目撃者ノ言ニ從ヘハ、千  
ニツキ百二十五ノ比ニ當レリト云フ。然レ也是恐ラクハ、多キニ過クル者ナラム、然レ也亦速射砲ヲ使  
用スルトキハ、其舊時ノ發射ニ遲緩ナル前裝砲又後裝砲ヲ操作スルニ比シテ、照準ノ精緻ナルハ、疑テ  
容レサル所ナリ。演習中ノ成績ヲ精査スルニ、吾人ヲシテ實ニ驚愕セシムル者アリ。ローヤルアーサー  
號ハ、千六百碼乃至二千二百碼ノ距離ニ在リ、八節ノ速力ニテ航走中十六彈ヲ發射セシニ其標的ヲ打撃  
セシ者十四彈ニ及ヘリ。又佛國艦隊ハ、四千米突ノ距離ニ在リテ、標的ヲ粉碎シタリト云フト雖也、斯  
ノ如キハ唯蠢動セサル死物ニ的中セシメシニ過キス。即チ之ヲ以テ、運轉駛走少時モ靜止スルコトナク  
應戰スル敵艦ニ、命中セシメントスルモノニ比スルハ、大ニ遲延アルナリ。往時ニ在リテ命中ノ少ナ  
カリシハ、接戰ニ臨ミ彈丸ヲシテ空ヲ擊タシムルハ却テ難シト想ハシムルノ時ニ在リシト云フ。今之ヲ概  
論スルニ、海波ノ状態ノ大ニ命中ノ度ニ影響ヲ及ホスハ、今古一轍ニ出ル者ノ如シ。即チ海波ノ靜和ナ  
ルトキハ、射撃ノ効最モ彰著ニシテ、百ニツキ十乃至十五ノ比ニ上ルト雖也、風烈シクシテ波ノ躍ルト  
キハ、命中ノ度一時ニ降リ百ニツキ二ノ比ヲモ望ムヘカラサルニ至ルナリ。

夫レ戰艦ノ海中ニ浮ヒテ動搖セサル資性ハ、是レ如何ナル海洋ニ在テモ、最モ重要ノ要素ナリ。乃チ復  
原力ニ富ミテ其舳ノ動搖セサル戰艦ニ裝備セラレタル數門ノ大砲ハ、平衡宜シキヲ得スシテ甚シク動搖  
スル戰艦ニ裝備セラレタル數十門ノ大砲ニ優ルノ効績ヲ顯ハスルヤ疑ヒナキナリ。往時ノ巨大ナル艦  
ヲ備ヘテ重心ノ上部ニ在ル者ニ在リテハ、最モ此理ヲ會得セサルヘカラサルナリ。

吾人ハ既ニ前章ニ於テ、佛國戰艦多數ノ巨大ナル兵裝艦ヲ備具セルコトヲ略述セリ。



最新ノ計畫ニ係ル、米國戰艦アイオア號ニハ、兵裝橋ノ面影ダニ止メス、唯數基ノ信號竿アルノミニシテ、英國式ノ輕小桅ヲモ亦悉ク廢シタルガ、ブルイクリン號モ亦然リ、佛國ニ於テハ、現今其戰艦ヨリ後部ノ兵裝橋ヲ撤去スルニ從事セリ。蓋シ一方ヨリ論スレハ、兵裝橋ハ信號ニ最モ必要ニシテ追撃ノ際、檣樓砲火ヲナスニ至大ノ便ヲ賦與スル者ナレトモ、又他方ヨリ見ルトハ、砲戰ノ初期後ニ、尙存在スヘキヤ否ヤ、頗ル疑訝ノ裏ニアルナリ。

兵裝橋ハ、接戰ノ際ニ非常ノ効益アル者ナルヘシト雖モ、長距離砲戰ノ後、尙兀立スルヤ否ヤ吾人ハ之ニ疑團ナキ能ハス。兵裝橋ハ、是レヲ裝備スル戰艦ヲシテ其復原力ヲ減失セシムルノ傾向アリ、若シ又該橋ニシテ轉倒スルコトアラム乎、尤大ノ艱難上甲板ニ匍伏シ、其妨碍ヤ必ラス鮮少ニアラサルヘシト信ス。英國ノ兵裝橋ハ、佛國ノ者ニ比スレハ、甚タ輕小ナリ。佛國士官ノ説ハ、以爲ラク我兵裝橋ハ容易ニ敵彈ノタメニ轉倒サルル者ニアラス、十五拇十二拇ノ一兩彈是ニ中リタリトテ、決シテ轉倒又ハ墜落スルノ虞ナシト。鴨綠江ノ役、日本ノ三大巡洋艦、松島、嚴島、橋橋ノ艦上ニ、兀突トシテ樹立セル兵裝橋ハ、海戰ヲ終ルニ至ル迄依然トシテ存シ、損害ヲ蒙リシコト至テ少ナカリシナリ。唯赤城ノミ其一橋、敵彈ノタメニ挫折セラレタリト雖モ、是兵裝橋ニハアラサリキ。然ルニ支那艦ニ在リテハ、兵裝橋ノ末路、皆慘憺ヲ極メシト云フ。

戰鬪中艦内ノ通信ヲ維持スルコトノ緊要ハ、該艦ト司令長官トノ通信脈絡ノ緊要ト取テ軒輊ナク、或ハ一層緊要ナル者アラム。戰鬪中紛擾ノ際電話管ハ、如何ノ効用ヲナス者ナルヤ、吾人ノ聞知スル所ニヨレハ、鴨綠江ノ役ニ從事セシ軍人ハ、皆耳ニ栓シテ聾セムコトヲ防キシモ、戰後數週ノ間ハ、茫乎トシ

艦内通信  
法ノ維持

テ人音ヲ辨セサリシト云フ。戰鬪中ノ艦内ハ、號令其他ノ人聲ト、我砲聲等ニテ喧騒ヲ極ムルノミナラス、敵彈ノ物ニ中ル音、其破裂スル響、打撃ヲ受クシ裝甲ノ震動、裝甲ノ破開シ或ハ襲撃ヲ生スルノ轟音等相混糅シ其鞞鞞轟匄ノ狀情實ニ名狀スヘカラサルニ至ルモノナルガ、唯斯ク聽官ヲ攪亂スルノミナラス、又爆發物ヨリノ毒烟、烟突ノ煤烟、火災ノ火焰等、或ハ前後ヨリ或ハ左右ヨリ來リテ視官ヲモ亦抹殺昏迷セントスルニ至ルモノナリ。艦内通信ノ難キ、以テ想フヘキナリ。夫レ傳話管ハ其通路中ニ彈丸ノ打撃ヲ蒙ル乎、或ハ裝甲ヲ穿貫シタル彈丸ノ其通路ニ觸ルトキハ、忽チニ斷絶シテ其効ヲ失フ者ナリ。艦内ノ一局部ヨリ他ノ局部ニ信號スル方法ニシテ、眞ニ恃ムニ足ル者アラム乎、其効用ヤ實ニ大ナルヘシ。蓋シ其信號ノ方法ハ、電氣裝置ニ據リ應信指鍼ヲ具備シ、以テ現用ノ傳話管ノ補助代用ヲナスニ足ルヘキ者ナラサル可ラス。

傳話機ヲ採用スルノ提議アリト雖モ、戰鬪喧鬧ノ際ニ之ヲ應用セムトスルハ殊ニ難事ナルヘシ。現今通用ノ機關室傳令器ハ、單ニ機巧ニ依頼スル者ナルニ因リ往々指點ヲ誤ルコトナキテ免レス。現ニヴイクトリヤ號ノ禍難ノ時ノ如キ、カムベルダウン號ハ、間一髪ノ危機ニ臨ミ機關室ニ傳ヘシ命令ノ正シク達セサリシヨリ一層ノ慘害ヲ加ヘタリキ。戰鬪ノ際ニハ、斯ノ如キ危機ノ、頻々生スルヤ知ルヘキナリ。此時ニ當リテ若シ傳令器ニ一回傳令ノ正達セサルコトアラム乎、立ロニシテ沈没ノ慘禍ニ陥イルヤ必セリ。

艦内ノ諸部ニ珠數ノ如ク人員ヲ連接配置シ、以テ號令ヲ傳フルノ方ハ、千八百六十二年北米南北ノ戰爭中モニトル形戰艦ニ於テ用ヒラレシガ、數年ヲ經テ復アスカト號ノ艦内ニ、此方ノ使用アリシト云フ。



此方ニ據ルモ、混亂ノ際士氣激昂ノタメニ數々過誤ノ生スルコトハ到底免レザルベシ。夫レ大装置ノ機械ニシテ、其局部甚々複雑ニ涉リ、簡單ナル語ノ何處ノ隅角ニ向フモ使用スヘカラサルカ如キ戰艦ト雖モ、是レヲ操縦スル者ハ尙往時ノ如ク人ニアラスヤ。即チ人ハ身心ヲ凝シテ複雜ノ機巧ヲ創設シ、而シテ其機巧ノ錯誤ニヨリテ復身心ヲ苦シムル者ト謂フヘキ歟。昔時一怪物アリ、風雨晦冥ノ夜、墳墓或ハ解剖室ヲ彷徨ス、其醜怪悽絶、眞ニ人ヲシテ戰慄セシム。事ヲ好ム者アリ、之ニ賦與スルニ數クノ意識神經ヲ以テス。怪物是レニ依リテ、往々活動シ、其好事者ヲ苦惱セシムルコト少ナカラサリシト云フ。今艦内機器ノ複雑ニシテ人ヲ懊惱セシムルコト、之ニ類スル者多キ也。艦上ニ司令塔ヲ安置シ、是ニ因リテ艦中ノ頭腦タル艦長ノ所在ヲ敵ニ明示スルハ、果シテ策ノ得タル者ナルヤ、吾人ハ少シク驚訝ナキ能ハサルナリ。英國ノ戰艦艦長ハ十五吋乃至十吋ノ鐵板ヲ以テ前部ノ司令塔ヲ防護シ三吋乃至四吋ノ鐵板ニテ後部ノ司令塔ヲ防護シタル者多シ。司令塔ハ即チ戰艦ノ神經組織ノ中心ニシテ、各部ノ信號通信、皆茲ニ輻輳集中スルナリ。其内部ノ機器ニハ、傳話管アリ、操舵機アリ、發火電鑰アリ。又内部ヨリノ展望ニ便センカタメニ、其上部ニ細孔狹空隙ヲ環繞シテ穿テタル者多シトス。又司令塔ニハ、其上部ニ海圖室或ハ艦橋ヲ戴カシメテ其外觀ヲ擁蔽セシ者モ往々アリト雖モ、若シ敵ノ一彈其樞要部ヲ打撃セム平、上部ノ構造忽チ破壊シ、或ハ火災ヲ起シテ燒失スルヲ免カレサルヲ以テ、然ルモハ獨リ司令塔ノ露出シテ、敵ニ好個ノ標的ヲ授クルニ至ルヘシ。蓋シ司令塔ニ彈丸ノ叢集スルコトハ、何人モ豫想スル所ニシテ、既往ノ實驗ハ即チ吾人ニ塔内慘況ノ前承説話ヲ遺セリ。メリマック號ト闘フテ明チ失セシウオルデン氏ハ、司令塔中ニ在リシナリ。チャールストン府前ニ戰死セシロッドガル氏ハ、司令塔中ニ在リテ戰

司令塔

死セシナリ。ミシシッピ河ノ戰ヒニ水路嚮導者ノ前後相繼テ斃レシモ、司令塔中ニ於テ斃レシナリ。グロ  
ー氏ノ彈ニ觸レテ其身ヲ粉碎セシモ、司令塔中ニ於テ粉碎セシナリ。ワスカイ號ノ艦長モ司令塔中ニ死  
シ、濟遠ノ士官數名モ亦司令塔内ニ戰没セリ。夫レ斷片ノ飛散スル驟雨ノ如キ中ニ立テ、司令塔内上邊  
ノ小窓ヨリ、艦ノ内外萬般ノ事物ヲ明視セント欲スルコトノ難キ、知ルヘキナリ。明窓ニ小戸ヲ設ク  
テ開鎖ヲ自在ナラシムルモ、戰時ニハ其毀損ナキヲ保スヘカラス、司令塔ヲ打撃スル重榴彈ノ震盪ハ、  
或ハ該塔ヲ破壊スルニ足ラサルモ、塔内ノ人ヲ殺傷シ、又通信裝置ヲ壞滅スルヤ知ルヘキナリ。故ニ艦  
内ノ通信ヲ安全ニスルノ最良法ハ、四吋乃至五吋ノハルゲン鋼鐵ヲ以テ防禦シタル、三四坐以上ノ通  
信局ヲ具備スルニ在ルモノノ如シ。而シテコロム中將ノ提議ニ從ヒ、通信器中ノ最モ簡單ナル者ト稱セ  
ラレタル、彼ノ大口徑傳話管一個ヲ、其直下ニ當ル防禦甲板下ノ一通信局ニ通セシムルカ如キ、又大砲及  
ヒ水雷ノ方位盤ヲ務メテ少數ニナス注意ノ如キハ、最モ緊要ノ事ナルヘシ。  
輓近ノ製造ニ係ル佛艦ニハ、右ノ如キ通信局ノ三座アル者アリト云フ。又獨逸ノ戰艦ハ、下甲板ノ安  
全ナル所ヲ撰定シテ、第二ノ通信局ヲ置ケリ。獨逸式ニ從フモハ、若シ艦長戰死スルカ如キアラム平、  
副長又ハ先任官ノ來リテ其位置ニ代ルニ必ラス數十秒乃至數分ノ時間ヲ要セム、然ルニ此數十秒乃至  
數分ノ時間タルヤ激戰ニ際シテハ決シテ空過セシム可ラサル者ナリトス。故ニ三個ノ司令塔ヲ備フレ  
ハ、唯一方ヨリ他方ニ其旨ヲ通スルノミニシテ、直チニ主權ノ授受ヲ了スヘキナリ。  
命令ノ出ル所ヲ諸方ニ設置スルハ、戰艦ノ頭腦ヲ保險スル良法ナリ。是レテ彼ノ重裝甲鐵ヲ以テ擁護シ  
タル一塔ヲ備ヘ、敵ヲシテ尾ヲ避ク頭ヲ撃ツノ利ヲ得セシムル者ニ比スレハ、其優ルヤ固ヨリ大ナリ。



加之艦長ニシテ若シ其權ヲ假シ、砲術長ヲシテ大砲、水雷長ヲシテ水雷ヲ專攝セシム乎、艦長、副長、砲術長、水雷長ハ、艦上斜方形ニ相對峙シタル、四ノ司令塔ニ據リ、各ニ其任ニ當ルヘキナリ。乃チ斯ノ如キ構造ノ戰艦ニ、斯ノ如キ配置ヲ用ヒシメハ、各ニ相隔絶シタル位置ニ在ルヨリ、敵ヲ展望スルコト自在ナルヲ以テ、各ニ其技ヲ恣ニスルヲ得、四座ノ司令塔中、其三座ハ、常ニ敵方ニ面シテ號令ヲ司ルコトヲ得ルナリ。又是組織ヲ用フルハ、彼ノ狹隘ナル一塔内ニ集リタル頭顱ノ、一敵彈ノタメニ悉ク、指揮官ヲ失フテ其適從スル所ヲ知ラス、自個任意ノ航路ヲ畫キテ所々ニ彷徨スルハ、自カラ危難ニ瀕スルノミナラス、其僚艦マデヲモ極難ノ地ニ排擠スル者ナリ。何トナレハ、斯ノ如キ統御ヲ失フタル戰艦ニハ、僚艦ヲ衝突シ又僚艦ニ衝突セラルルノ虞アルヲ免カレサルノミナラス、彼ノ飄々洋州ノ如ク適從スル所ナキ運動ハ、假令少時寸刻タリト雖モ、尙戰列ヲシテ大ニ混亂セシムル者ナレハナリ。斯ノ如キ災害ノ豫防策ハ、平素ニ講究シテ之ヲ規畫シ置クコト實ニ甚タ緊要ナリ。蓋シ此ノ禍難ハ、戰艦ノ初期ニ起ルコト稀少ナラム歟、吾人固ヨリ未タ然リト斷言スルヲ得スト雖モ、司令塔ノ小形ニシテ打撃ニ便ナラサルコトヲ想見スルハ、砲戰ノ初期ニ司令塔ノ破碎シテ、之カ爲ニ其艦ノ統御力ヲ失スルニ至ルカ如キハ、所謂絶無僅有ノ事タルヤ明矣。艦隊ノ漸々相接近スルニ從ヒ、司令塔ニ中ル彈丸ハ、漸次ニ多キヲ加フルモノナルガ、接戰ニ際シテハ、統制ヲキ戰艦ヲ以テ、最モ危險ヲ醸成シ易キ者トス。艦長ニハ、大抵艦隊ノ相接近スルニ至ルマテハ、隱蔽場ヲ離レテ船橋或ハ上甲板ノ瞰視ニ最モ便ナル位置ニ立チ、部下ヲ獎勵奮激セント決心スル者多カルヘシ。

或ハ米國モニトル形戰艦ノ艦長ノ如ク、司令塔ノ下風側ニ立ツヲ喜フ者アラム。然レモ、鴨綠江ノ役ニ徴スルニ、速射砲ノ急雨ハ、支那艦上ニ現出スル者ヲ悉ク殺傷掃蕩セリ。ル、ヤツチ雜誌ノ建議セシ條項ハ、後來其方針ヲ採用スルノ機アレハ、甚タ信據スヘキ者ナルカ如シ。其大意ニ曰ク、被服或ハ帆布ノ類ヲ、戰艦ノ上部ト同色ニ彩塗シテ、艦長持場ノ附近ニ張り、以テ人ノ頭部以下ヲ掩ヒ、機砲及小露出武器ノ兵員モ別ニ障蔽ナキハ、同様ノ防護ヲ爲スヘシ。前述ノ被覆物ハ、敵ヲシテ兵器兵士ノ眞位置ヲ認ムル能ハサラシムルヲ以テ、吾人ハ防護ヲ加フルト稱スルノ不可ヲ見サル者ナリ。又斯ノ如キ障蔽ヲ敵前ニ置クハ、砲手ヲシテ沈著ナラシムルノ效アリ。其危害物タルヲ免カレサル所ハ、唯敵彈ノタメニ燃エ易キ患アルヲ以テ、動モスレハ火災ヲ起スノ虞アルノ一事是ノミ。故ニ此處ナカラシメンカタメ、此被覆物ハ、明礬水或ハ不燃性ノ溶液ヲ以テ、潤沾スルヲ要ス。長距離ノ交戰中彈丸ノ甲鐵ニ穿入スル深サノ幾許ナルヤハ、是レ何人モ識ラムト欲スル所ノ問題ナルヘシ。鴨綠江ノ海戰ヲ引用スルハ、甲鐵ニシテ適應ノ厚サ即チ十二時前後ナルトキハ、彈丸ハ決シテ之ヲ穿貫スルヲ得サルナリ。然レモ、現今大砲ノ勢力ノ増進ニハ、實ニ愕シヘキ者アルヲ以テ、吾人ハ最モ之ニ就テ輕信速斷スルヲ慎マサル可ラス。

鴨綠江ノ事實ニ徴スルニ、薄弱ナル裝甲ハ、寧ロ無キニ若カサルナリ。四吋甲鐵ハ、長距離ニ在リテ、十二吋連射砲彈ヲ排拒シ兼テ十五吋彈ニ抵抗シ得ヘシ。是レ恃ミトスルニ足ル最薄ノ裝甲トス。上述ノ薄弱ナル裝甲トハ四吋以下ノ者ヲ稱セシナリ。

新式ニルック製二十吋速射砲ハ、數理上砲口ニ在リテ二十吋鋼鐵板ヲ穿貫スルノ勢力ヲ有シ、實戰ニ於



テ殆トド直角ヲ以テ標的ヲ打ツキハ、二千碼ノ外ニ在リテ十吋ノ合成鐵板、八吋ノハルヴエー鋼鐵版ヲ穿貫スルニ難カラス。但試驗場ニ在リテ、吾人ノ驗知スル穿貫力ハ、獨リ砲術ノ最惠條款ニ依リテ其勢力ヲ指定シ、以テ彼我ノ比較基本ヲ確定スルニ過キサルナリ。故ニ之ヲ以テ推演スルトキハ、彼ノ戰艦ニ用フル大砲ハ適應ノ者ナルヲ要ストノ説モ、未タ輕信スヘカラサル者アリ。例之現用ノ英國製二十九噸砲ハ、昨今海上ニ浮泛スル最厚ノ甲鐵ヲ穿貫スルニ足ルヲ以テ、海上ニ使用スル者ハ、之ヲ以テ最大重砲トナスヘシトノ論アリ。然レ此砲ヲ以テ最厚ノ甲鐵ヲ穿貫セントス、是レ爲スヘシト雖モ、未タ必ス可ナラサルナリ。夫レ海上ニ輪贏ヲ決セントスル者ハ、敵ノ厚裝甲ヲ穿貫スヘキ巨砲ヲ備フルモ、未タ以テ定レリトナスヘカラス。即チ敵ノ厚裝甲ヲ必ス穿貫シ得ルノ巨砲ヲ必備セサル可ラサルナリ。是レ吾人ノ一日モ忘ル可ラス又忽諸ニ附スヘカラサル所ナリ。

戰艦ノ忍耐ハ、遂ニ兵員ノ忍耐ニ歸スルモノナルヘシ。然レ敵艦ニシテ水線部ニ損害ヲ受クルモ沈没セサル以上ハ、裝甲掩護ノ庇蔭ニアラサル我大砲ハ、遂ニ接戰ニ堪フ可ラサルニ至ルヤ疑ヒテ容レサルナリ。夫レ敵ノ大砲ニシテ尙寂滅セサラム乎、假令我厚裝甲ハ、防禦力ヲ現スルノ特ニ較著ナルモ、數々損傷ヲ蒙ラザルヲ得サルヤ知ルヘク、又敵ノ大砲既ニ敗滅スルモ、敵將ニシテ驍勇敢死ノ士ナラムニハ、必ラス水雷或ハ撞角ヲ以テ我レニ薄リ來ルヘキニ由リ、乃チ斯カル危機ニ際シ若シ我ニ優逸ナル砲火ノ尙存セム乎之ヲ以テ敵ヲ窘蹙スル固ヨリ難キニアラサルナリ。

巨砲ノ退却力ハ、今日ニ至テ殆ト其少極ニ達シタル者ノ如シ。是故ニ各國孰レモ巨砲ヲ撰擇スルニハ十ニ吋砲以下ヲ採ラサルノ傾向アリ。米國ノ如キ其新造ノ戰艦艦ニハ、復十三吋砲ヲ用フルニ至レリ。蓋シ

巨砲ノ利ハ、猶大艦ノ利ノ如シ、其打撃力ノ大ニシテ、爆發藥ノ多量ナル榴彈ヲ用ヒ得ルニ在リ。而カモ爆發力ノ洪大ナル榴彈ハ、亦裝甲穿貫ノ利ヲ兼ヌル者ナリ。是レニ反シテ巨砲ノ害ハ、砲ノ愈々巨大ナルニ從フテ發砲愈々迅速ナルヲ得ズ、命數短クシテ一艦ニ裝載シ得ヘキ砲數ノ亦少ナキニ在リ。加之巨砲ハ其裝置多クハ、機巧ヲ極ムルヲ以テ、砲數ノ少ナキトキハ則チ破壞シテ用ヲ失スル時機ノ多キ者タラサルヲ得ス。往昔ヨリ砲ノ大小ハ常ニ識者ノ思慮ヲ煩ス所ナルガ、即チ十八斤砲ト二十四斤砲トノ得失及ヒ長四十二斤砲ト短三十二斤砲トノ利害ニハ、既ニ紛紜ノ論争モアリシナリ。砲術ノ進歩ハ、駁々トシテ一日モ止マサルヲ以テ、適應ナル重量ヲ以テ、吾人ノ爲サント欲シ、又爲サント必スル巨砲ノ出ル日ハ、蓋シ必ス遠キニアラサルヘシ。乃チ斯ノ如キ大砲ニハ、必ラス長キニ過キテ、使用ニ便ナラサル所ナキヲ期シ難シト雖モ、其不便ハ爆發力ノ洪大ナルコトヲ想ヒ起シテ之ヲ忍ンテ可ナリ。

忽微砲ハ、現今佛國ニ於テ噴噴其用フヘキヲ稱スル者アリ。蓋シ大口徑ノ短身砲ハ、往時ノ如ク接戰ノ際ニ長身砲ト混用セムニハ、大ニ利益アルナルヘシ。然レ艦隊ノ甚々密接スルニ至ルマテハ、其効用ノ至テ少ナキ者ナラム。長身砲ニ於テハ、其彈道平低ニシテ距離推測ニ些少ノ誤差アルモ、命中ヲ過ルノ機少ナキナリ。但シ短身ノ大口徑砲ハ、甚々重大ナル榴彈ヲ發射スルヲ得ルノ利アル者ナリ。彈痕斑々タル戰艦次第ニ相近ツキ、毒烟ヲ吐ク巨砲ノ漸ク滅スルニ反シ、其壘中ヲ被ル者ノ愈々多キニ至ル、即チ之ヲ戰艦ノ終期トス。蓋シ此時ニ際シテハ、現今ノ英國式米國式ノ如キ、補助武器ニ悉ク裝甲防禦ヲ施シタル者ハ、固ヨリ例外ニ屬スト雖モ、凡ソ諸艦ノ補助武器ハ大抵裝甲ノ十分ナラサル砲臺内ニ蒐集セルヲ以テ、即チ爆發彈ノ演出セル慘禍ニ罹リ、復々其長技ヲ逞フスルヲ得サントス。是ニ於テ乎、



彼ノ水雷艇使用ノ好機會ハ來ルナリ。即チ彼レ水雷艇ニハ既ニ輕速射砲ノ彈雨ヲ冒侵セラルヲ得サルノ危險ハナクナリシナリ。何トナレハ、其襲撃セムト欲スル敵艦ハ、業已ニ千八百七十年式ノ舊艦ニ復シ、其依頼スル利器亦裝甲袖下ノ巨砲ニ過キサレハナリ。乃チ此時ニ當ツテヤ、我レ水雷艇ヲ繼テハ、敵モ亦之ヲ繼テ防戦セントスヘキニ由リ、其狀宛モ鷲鷹擊搏ノ後チニ燕雀ノ相馳逐スルカ如キモノアツテ、其雌タリ雄タルハ、其技ノ優劣ニ因テ決スルナラムガ、之ヲ保翼セント欲シテ戰場ニ相邂逅スル者ハ、蓋シ巡洋艦ナラム。而シテ或ハ破碎用ニ堪フル能ハサル者、或ハ踵ヲ回ラサシテ沈没スル者、各々其技ヲ演ジ了ルキハ、彼我ノ戰鬪艦再ヒ舞臺ニ其最後ノ衝突面折ノ齣ヲ演セントシ、淨丑生且相交代シテ復タ新手ノ豫備艦隊、各方ヨリ現出シ、其優劣ニヨリテ勝敗ノ大團圓ヲ告クルナラム。又然ラサルモ機關破摧シテ尙投降セサル者アルトキハ、敵ノ來リテ撞角ヲ試ムル者アルヤ必セリ。是ニ於テ乎水雷艇ハ再ヒ場ニ登ラム。然レモ吾人ハ遂ニ彼我共ニ重砲ノ決鬪ヲ以テ、帷幕ヲ下スノ期ナリト信スル者ナリ。夫レ支那ノ十二吋砲十吋砲ガ、一千二百斤、八百五十斤ノ重量アル榴彈ヲ放ツテ、松島艦上ニ如何ノ効績ヲ顯ハセシヤハ、是レ吾人ノ考究シ、且ツ評論セント熱望スル所ニアラスヤ。乃チ斯ノ如キ巨彈、厚裝甲ヲ穿貫シテ、其直前ニ木材ノ破片ト、甲鐵ノ破片トヲ迸灑放擲シ、艦内ニ入りテ緩燃信管ノ火ヲ取リ、以テ爆裂スルアラム乎。或ハ毒焰四迸鬪艦震動シ、或ハ全艦破碎若クハ半折シ、其慘狀ノ謂フ可ラルニ至サルハ、吾人ノ疑ヒヲ容レサル所ナリ。

五十斤ノメリニット爆發藥、鋼鐵甲板ニ激シテ爆發スルトキハ、其一平方碼ヲ破碎シテ、重量四百斤ノ破片ヲ機關或ハ汽罐上ニ返跳セシムルナリ。其一秒時ノ飛行速力ヲ推算スルニ、二百呎乃至二百十

呎ニ及フト云フ。是ニ由リテ之ヲ觀レハ、則チ十二吋ノ榴彈一個ハ、一戰艦ヲ壞廢スルニ足ルモノナリト雖モ、裝甲ヲ穿貫シテ高度ノ爆發藥ヲ輸致スルヲ得ヘキ信管ハ、現今果シテ世ニ在ルヤ否ヤ、尙之ニ疑ナキ能ハサルナリ。

砲聲轟々硝煙彈雨吐焰血ト紅ヲ競ヒ、戰鬪ノ痛楚モ其末期ニ際スレハ、叫喚修羅場ニ髣髴トシテ眞ニ人ヲシテ恐怖震慄セシムル者アリ。彼ノ前世界ニ在リテ猛暴ヲ逞フシタル怪象ハ、今ヤ波間ニ出沒シテ背上ノ將士ヲ吞吐シ、狂瀾怒濤モ之カ爲メニ紅ナラントス。慘烈ノ光景其萬一ヲ想像セントスルモ得ヘカラス。人誰レカ其身ヲ愛セサル者アラムヤ、其自カラ血肉紛飛ノ間ニ立チ悽愴悲哀ノ中ニ其身ヲ處シテ規律ノ外ニ逸セサル者ハ、忠愛ノ高風遺烈深ク心肝ニ透徹シ、此レヲ以テ彼レニ代フ可ラサルヲ知レハナリ。况ンヤ其愈慘痛楚ヲ極ムモ、一毫ノ其身ヲ利スルナキニ於テオヤ。

屠戮セラルル者果シテ斯ノ如ク夥多ナルヤ、戰艦ノ破損壞裂果シテ斯ノ如ク慘ナルヤ、是レ亦吾人ノ識ラント欲スル所ナリ。一戰艦ニシテ數々打撃ヲ受ルモ、未タ投降セス又沈没セサルハ、其慘狀實ニ前述ノ如キ者アラム。蓋シ慘害ノ大小ハ大ニ艦員ノ勇怯ニ關スル者ナリ。即チ其將卒勇敢ニシテ氣節ニ富ム乎、從容トシテ水火死生ノ間ニ奔走スヘク、恇怯風ヲナサム乎、忽チ沮喪逡巡スルナリ。故ニ彼我ノ愈々勇敢ナルニ從ヒ愈々慘害ノ甚シキ者ト知ルヘシ。夫レ現今ノ水兵ハ、彼我ノ共ニ、規律ノ嚴肅タル常備役ニアル者ナリ。乃チ彼ノ佛國革命戰爭時代ノ悉ク商船水夫、捕虜、陸兵、老水兵等ヨリ組織シタル烏合ノ團隊トモ謂フヘキ者トハ、固ヨリ日ヲ同フシテ語ル可ラサルナリ。而シテ殊ニ大英國海軍ノ水兵ハ、悉ク精選兵ニシテブリテン國民ノ華英ナリ。若年ヨリ海軍ニ入りテ素養訓練セラレ、上ニ事ルニ忠

戰鬪中ノ死亡



蓋ニシテ公戰ニ勇敢ナルハ、殆ンド天稟ニ出ルカ如ク、其甲板上ニ在テ凜然タル風采ハ威武モ遂ニ之ヲ屈スル能ハサルノ概アリ。國民ノ據テ以テ海軍ヲ恃ミトスル亦宜ナラスヤ。乃チ我水兵ノ忠勇ニシテ活發ナルコト斯ノ如キハ眞ニ大英國ノ大英國タル所以ヲ識リ、其威名ノ年ニ月ニ赫灼タル所以ヲ知ル者ノ薰陶撫育セル結果ニ外ナラサルナリ。夫レ我水兵ニ自カラ喜ンテ戰場ヲ奔馳スルコト猶祭禮當日ノ祠前ニ競馬術ヲ演スルカ如キモノアルハ、其希望抑々何點ニ在テ存スル乎、即チ神前ノ菓菓茹瓜ハ、其意トスル所ニアラサルナリ、雞ト牲燔モ亦其欲スル所ニアラサルナリ、其一意獲ントスル者ハ、唯報國ノ芳名ニ在テ存スルナリ。彼等ハ亦戰場ニ在テハ、其生死共ニ大英國ノ爲メナルヲ知レルノミナラス、祖先ノ必ス戰ニ克チシテ口碑ニ傳フルハ我水兵ノ常習ナリ。乃チ彼水兵等ノ輕シク之ヲ敵ニ讓ルノ理アラシヤ。吾人ハ又彼等ノ敵前ニ臨ムテ千挫不屈百折不撓ノ精神アルヲ知ル者ナリ。屈セス撓マス其慘害ノ甚シキ推知スヘキナリ。彼我亦能ク逸群ノ抗拒ヲナスハ疑ヲ容レサル者アリ。佛國水兵モ亦精選兵ナリ。膽勇訓練規律一ノ缺クル所ナシ、蓋シ既往ノ屈辱ヲ雪カントスルハ、彼輩ノ熱望シテ止マサル所ナリ。膽勇一達如何ノ劇ヲ演スルヤ、吾人ノ嗷嗷ヲ要セサルナリ。戰爭ノ慘禍ハ年ヲ追フテ滅ズミシトハ、是往人ノ主張スル所ナルガ、陸上ニ在リテハ前史既ニ之ヲ證シテ餘リアリ。然レ海上ニ於テハ、之ヲ徵證セント欲スルモ、其類例ノ少ナキニ苦ムナリ。吾人ハ既ニ鴨綠江リッサノ役ノ損傷禍害ヲ查閱シテ、之ヲ往昔ノ海戰ニ對照セリ。千八百六十年ヨリ千八百六十六年ニ至ル迄ノ諸海戰ニ於テハ、死傷ノ極メテ少ナキヲ見ル、是レ甲鐵ノ大砲ニ贏テテナリ。現今ハ甲鐵ノ大砲ニ一籌ヲ輸セサルヲ得サルノ時ナリ、加フルニ大砲ニハ尙之ヲ補翼スル水雷ナル者アリ。

最厚甲鐵ハ、實戰ニ在リテハ、尙巨砲ヲ以テ穿貫スヘカラス。唯試驗場ニ刑搏シタル者ヲ巨砲ノ望ム所ノ條件ニ從フテ打撃スル時ノミ、之ヲ穿貫スルヲ得ルナリ。然レ此ノ如キ厚装甲ハ、唯戰艦ノ一部ヲ防禦スルニ過キス、巨砲ノ勢力日ニ強盛ニ赴クヲ以テ、造船計畫者ハ、遂ニ主要ノ部局モ尙防禦ヲ施サスシテ止ムニ至レリ。

松島艦上ノ慘禍ハ、遂ニ該艦ヲシテ戰場ヲ退却セサル能ハサルニ至ラシメタリ。其死傷ハ、全員ノ三分ノ一ヲ超過セリト云フ。又千八百一十二年役ノ劇戰ニ英國ノ戰艦ハ、數回はレト同一ノ慘禍ニ罹ルニ至ルマテ對抗シタリシナリ。

此役中ノ最モ劇烈ヲ極メシ戰鬪ニ關シ、英國戰艦ノ戰死者ノ百分比ヲ列擧スレハ次ノ如シ。ギエリエレ號對コンスチチューション號三十二、フロリック號對クスブ號六十七、マセドニア號對ユナイテッドステーツ號三十七、ジャヴァ號對コンスチチューション號三十八、ビーユック號對ホルチー號三十三、レエンゲール號對クスブ六十七。

又佛國革命ノ戰爭中ニ於ケル軍艦決鬪ノ最モ慘烈ヲ極メシ者二回ヲ取り、英國戰死者ノ百分比ヲ算スルニ、三十二及三十四トナルナリ。千八百一十二年役ノ慘禍ハ、戰死負傷及溺死ヲ通算スレバ、百分ノ三十或四十ノ比ニ上ルナリ。人命ノ戕害既ニ斯ノ如シ、戰艦ノ災禍モ此レニ讓ラザリシナリ。戰鬪艦ノ致命部ハ、克ク装甲ヲ以テ防護スト雖モ、其甲板ハ接戰ニ至レバ、敵彈ノ飛來リテ甲板下ニ穿入スルコト多ク、水線以下モ亦、艦ノ傾斜スルルニ洞射セルコトナシト云フ可ラス。甲鐵艦ノ損傷ハ、其相接スルニ至ラサレハ、未タ預知スベカラス。而シテ



其迫擊稍烈シキニ至ラムニハ、一兩艦ノ海底ニ逝ク者モ必ズアルナラム。  
 僅々數個ノ彈丸ト雖モ、水線部ヲ打ツルハ、爲メニ其艦ヲシテ沈没セシムルニ至ルコト多シ。即チヱイク  
 トリヤ號ノ如キ復原力ノ富饒ナル戰艦ニシテ猶ホ咄嗟ノ間ニ彼レカ如キ慘禍ニ罹ルヲ見レバ、水線  
 部ニ於ケル損害ハ、如何ニ些少ナルモ尙ホ其艦ノ浮泛力ヲ阻斷スルニ足ルヲ知ルヘキナリ。エルガル博  
 士ハチーチエア新誌ニ投書シテ、裝甲ナキ下艙ニハ、宜シク戰艦前ニ潮水ヲ充滿スヘキヲ主張セリ。  
 蓋シ斯ノ如クスレハ、艦ノ平均力ヲ失ハサルノ利アレハナリ。然レモサンスバレー號ノ如キ戰艦ノ水  
 下艙側ニ、水ヲ滿タスルハ、裝甲帶ノ頂部沈潜シテ水線ニ並ビ、或ハ其下部ニ沈ムニ至ルヘク、アド  
 ミラル號級ノ戰艦艦モ亦蓋シ同一ノ成果ヲ呈スルナラム。  
 戰艦艦次第二相接近シテ、其損害ヲ受ルコト漸ク烈シキニ至ラムニハ、水雷撞角モ亦、互ニ其技ヲ逞フ  
 セントスルヤ知ルヘク、而カモ水線部ニ損害ヲ受ケタル戰艦ハ、尙ホ人ノ注意ヲ引カサルニ既ニ航海中  
 ニ顛覆スル者多カルヘシ。巡洋艦ノ如キ裝甲防禦ノ不十分ナル者ノ損害ハ、其烈シキコト蓋シ意想ノ外  
 ニ出ルモノアラム歟。舊時ノ木製戰艦ハ、猛烈ナル砲撃ヲ受ケシト雖モ、當時ノ大砲ハ其力甚々微弱ナ  
 リシヲ以テ、屹然トシテ其位置ヲ保持シ、沈没破滅ニ至ルコトハ甚々稀レナリキ。故ニ今之ヲ以テ二涅ノ  
 遠キニアルモ尙ホ之ヲ穿貫スルヲ難シトセサル新式ノ巨砲、其他精妙ノ機器ヲ裝置セル戰艦ヲ以テ、迫  
 撃スルニ比スルハ、其損害ノ多少固ヨリ之ヲ預知スルニ難シトセス。西京丸ノ鴨綠江ニ於ケル、殆  
 ト遊艦ヲ以テ角艦ヲ縱觀セシ者ノ如シ。其死カル、ヲ得タルハ、唯天幸ノミ。支那ノ巡洋艦ニシテ西京  
 丸ニ優ルコト數等ノ者モ、尙踵ヲ回ラサスシテ沈没セシニアラスヤ。又往時ニ在テハ戰艦不幸ニシテ海

戰艦ノ歴  
時

底ニ逝クモ、其木製ノ構造ハ沈没ヲ遲緩ナラシメシガ故ニ、其時間ヲ以テ將卒ノ救援ヲ受クル頗ル容易  
 ナリキ。然ルニ鐵船ニ在テハ、其沈没轉覆スルヤ、一分時間ヲ出テサル者アリ。乃チ以上列舉セル所ニ  
 因テ觀察スルニ、海軍戰艦ノ慘害ヲ以テ、世ヲ追フテ滅スル者ト想像スルハ則チ其當ヲ得サル者ナルヘ  
 シ。  
 海戰ノ今後長時間ニ涉ラサルヘキハ、是吾人ノ確信スル所ナリ。又長時間ニ涉ラント欲スルモ得ヘカラ  
 サルナリ。之ヲ既往ノ艦隊戰艦ニ徵スルニ、五時間以上ニ涉リシモ至テ稀ナルヲ覺ユ。リッザノ海戰ハ、  
 殊ニ短時間ヲ以テ終リ、鴨綠江ノ役ハ、稍五時間ニ過キタリ。然レモ鴨綠江ノ役ニ斯ノ如キ長時間ヲ要  
 セシハ、彼我共ニ接戰ヲ避ケ、唯長距離砲戰ヲ以テ持重ヲ事トシタルニ由ルナリ。自今愈々砲火ニ急速  
 ナ加フヘキモ、是レニ適應スル多量ノ彈藥ハ之ヲ積載スルヲ得サルナリ。而シテ破壞力ニ供用スル兵器  
 ハ愈々其潛勢力ヲ擴充セントス。乃チ斯ノ如キ者ハ、是悉ク相倚リ相待チテ、俱ニ戰艦ヲシテ急速慘烈  
 ナラシムル者ニアラザルハナキガ、又、彼我共ニ堅忍苦闘以テ長時間ノ抗爭ヲ事トスルモ、俱ニ毫毛益  
 スル所アルヲ見ザルナリ。故ニ彼我俱ニ、其結局ノ速了ハ固ヨリ冀フ所ナルベキヲ以テ、即チ乘スベキ  
 機ノアラムニハ、直チニ進襲格闘セント欲スルヤ知ルヘキナリ。  
 戰艦ノ結果勝敗ノ特ニ懸隔スルコトアルハ、必シモ前述ノ如キ急促ノ接戰ニ限ラサルナリ。彼我共ニ遺  
 策過失ナク、戰艦人員共ニ對等ナルトキハ、則チ其勝敗ニ懸隔ナカルヘシト雖モ、斯ノ如キハ實ニ稀有  
 ノ事トス。蓋シ彼我ノ一方必ラス多數ノ戰艦、精練ノ士卒ヲ有シテ艦隊運動ニ諳熟シ、其艦長モ亦精練  
 熟達ノ人ナルヘシ。是レ則チ大ナル勝敗ノ由テ生スル所以ナリ。之ヲ要スルニ、海戰ハ世人ノ想像スル

明日ノ海戰



カ如ク、勝敗ヲ判スルニ物ニ依ルコト少ナクシテ、人ニ倚ルコト甚タ大ナルカ如シ。即チ勝ヲ制スル者ハ、良艦ニアラスシテ、好士卒ニアルナリ。然レモ吾人ノ孜孜トシテ最良艦ノ製造ヲ企望スル者ハ、戦時ハ暫ク之ヲ置キ平時ニ在リテ我技能ノ隣邦人ヨリ優逸ナルヲ特ミトスルカ如キハ、策ノ最モ拙ナルモノナルヲ以テナリ。今日海戦一局ノ餘、我が諸艦皆大破シテ彼ノ艦ニ尙用フルニ足ル者數隻ヲ存セム乎、明朝ニ至リテ、天下豈我レヲ援クル者アラシヤ。乃チ敵ヲ吹キ去ラシメ又之ヲ制シテ退却セシムルノ天風ハ、世ニ復タ之ヲ望ムヘカラサルナリ。彼我ノ一方ニ挽回ノ容易ナラサル大破損ヲ蒙ラシメタルハ、是レ則チ大海戦ノ目的ヲ達シタル者ナリ。勝敗ノ顯著ナラサル者ノ如キハ、固ヨリ之ヲ論セスシテ可ナリ。

戦艦ノ七

既往百年ノ間ニ於ケル有名ノ海戦ニ於テ、戦敗國ノ戦艦ノ亡失ヲ表掲スレハ、左ノ如シ。

時代	海戦名稱	戦敗國	戦艦數	燒失或ハ沈没ノ艦數	捕獲セラルレ艦數	亡失ノ總計
一七八二年	四月十二日	佛蘭西	三〇	一	五	一
一七九四年	六月一日	佛蘭西	二六	一	六	一
一七九七年	セントウインセント	西班牙	二五	一	四	一
一七九七年	カムベルダウ	荷蘭	一六	一	九	一
一七九八年	ナイル	佛蘭西	一三	一	八	一
一八〇五年	トラファルガ	佛蘭西 西班牙	三三	一	七	一
一八二七年	ナバリノ	土耳其 埃及	三	三	一	五

一八六六年	リッサ	伊太利	二三	二	一	三
一八九四年	鴨綠江	清	一二	四	一	五

但シ\*印ハ、戦後アノマナニ於テ沈没セシ者ヲ示ス。×印ヲ付シタル者ノ内、三隻ハ再ヒ敵ノ奪回スル所トナリ、十隻ハ難破燒失或ハ失踪セリ。又五隻ノ他艦ハ十月二十四日十一月四日ニ捕獲サレタリ。

近時捕獲艦ノ史上ニ現出セサル所以ハ、機會ノ少ナキト、戦例ノ多カラサルトニ在テ存スルカ如シ。然レモ是ヲ以テ近時ノ海戦ノ其狀況ニ於テ大ニ昔日ニ異ナル所アルヲ推知スヘキナリ。蓋シ捕獲處分ノ煩ヲ避ケテ敵艦ノ全滅ヲ計ルハ、彼我ノ俱ニ好手段トスル所ナリ。前ニ論セシ所ハ、凡テ晝間戦闘ノ條項ニ係リ、未タ敵ノ不意ニ乘スル者ニハ論及セサリキ。若シ一艦隊、晝夜ヲ論セス意想外ニ敵ノ攻撃スル所トナラム乎、其覆滅踵ヲ回ラササル者アラム。然レモ彼我ノ艦隊ニハ、互ニ戦艦ヲ派出シテ、偵察哨候ヲ專一トスルコト多キヲ以テ、斯ノ如キ不慮ノ襲撃ニ遭遇スルコトハ、蓋シ必ス稀レナラム。彼我ノ艦隊ノ互ニ格闘ヲ欲スルハ、勿論ノコトナレモ、是レカタメニ特ニ夜中攻撃ヲ計ルニ至ルカ如キコトハ、先ヅ無カルヘキナリ。若シ夜中戦闘ノ起ルコトアラム乎、ソハ必ラス水雷攻撃ノ後ナラム。即チ水雷艇攻撃ノ餘我一艦ニ特ニ災害ヲ蒙レル者アラムニハ、敵ハ恐ラク暗ヲ衝キテ急攻シ來リ、我損艦ヲ捕獲或ハ破滅セムトスルナルヘシ。斯ノ如キ時ニハ、探照燈ハ最モ効用アル者ナリト雖モ、我僚艦ニ其閃光ヲ受クシムルハ、特ニ甚タ不利ナルヲ以テ、之ヲ使用スルニハ、最モ慎重ナル取扱方ヲ要スルナリ。然レモ夜中戦闘ハ、海戦ノ最モ危道ニシテ、唯萬一ヲ僥倖スルニ過キ

明日ノ海戦



豫想ニ至  
適至當ナ  
ル戰艦  
ノ形式

サル者ナルヲ以テ、水雷艇隊ノ攻撃又隻艇ノ小鬪ヲ除キ、大戰艦ヲ以テ夜襲ヲ計ルカ如キハ、如何ナル司令長官ト雖モ蓋シ必ス好マサルナルヘシ。

海戰ノ一術トシテ、敵艦闖入ノ一手段ハ、往昔數々効ヲ奏シタリト雖モ、現今ハ全ク其跡ヲ收ムルニ至レリ。即チ敵艦闖入ヲ實行セント欲スルニハ、其ノ運動力ノ全ク消滅スルヲ待タサル可ラサルモノナリ、然ルニ現今ニ在リテ運動力ナキ戰艦ハ、唯敵ノ爲サントスルガママニ委棄セラレタル者ナラサルヲ得ス、是敢テ闖入襲撃ノ徒勞ヲ須ヒサル所以ナリ。コバドングニ對スルインデベンデンシヤ號ノ格鬪ヲ看ルルハ、最モ明カニ其然ルヲ了解シ得ルナリ。又水雷或ハ撞角ノ威嚇ニ據リテ敵ヲ降伏セシメ得ルトスレハ、則チ闖入襲撃ノタメニ徒ラニ人命ヲ損スルガ如キハ、是決シテ智者ノ爲ササル所ナルヘシ。

昨今ノ海戰ノ状態ヲ以テ、吾人ノ既ニ詳述セシ如キ者ト、甚タ相逕庭スルコトナシトスレハ、戰艦ノ形式構造ハ、如何ナル者ヲ以テ最モ戰闘ニ適當ナリトナス乎、蓋シ現今尙建造中ニ在ル戰艦ニ對照スルニ、吾人ノ理想ニ盡キシ所ノ者ヲ以テスルルハ、吾人ノ推想ノ正理ニ庶幾キコトヲ徵證シ得ヘキモノアラム。是レ吾人ノ如何ナル事項ヲ論述スルニモ、特ニ海軍造船術上ニ潛心焦慮シテ、浮夸過大ニ流ルル弊ヲ防キシヲ以テナリ。吾人ハ今戰艦ニ最モ必要ニシテ、從フテ最モ注意ヲ要スル所ノ防禦力ヨリ論述セントス。夫レ防禦力ニ關シ、第一ノ樞要ナル部分ハ、艦ノ下部、即チ水線以下ノ諸部局ナリ。是レ全艦安危ノ關鍵ニシテ、若シ該部破壊スル乎、又ハ之ニ隙孔ヲ生スルルハ、縱ヒ防水扉防水區畫アリト雖モ、遂ニ海水ノ充滿スル所トナルヲ免カレサルヲ以テナリ。次ニ必要ナル部局ハ、機關、汽罐及諸般ノ動力機ナリ。蓋シ艦ノ潜水部ハ、其動搖ノ特ニ甚シキキニアラサレハ、直チニ打撃ヲ蒙ルコト少ナキヲ以

テ、其外部ハ装甲防禦ヲ施ササルモ可ナリ。然レモ内部ヨリノ禍害ヲ防遏セシカタメ、装甲甲板ヲ以テ其心胸ヲ防護スルヲ要ス。蓋シ機關等諸動力機ハ、水線以下ニ愈々降ルニ從フテ愈々安全ノ度ヲ増スヘシト雖モ、其占據スヘキ場所ノ廣狹ト浮泛力ノ妥當トニ關シテ制限アルハ、固ヨリ論ナキノミ。水線部以上ノ外舷ハ、造船術上ニ配賦シタル重量ノ許ス限リハ、成ルヘク高所マテ装甲防禦ヲ施ササル可ラス。是レ戰艦ノ上部ヲシテ最重巨砲ヲ除キ、現今最大速射砲ニ對抗セシメンカタメナリ。戰艦ノ頭腦ナル艦長ノ持場ト、其致命神經ナル通信裝置ハ、適當ナル装甲ヲ以テ之ヲ防護シ、又複線式ヲ以テ通信裝置ノ安全ヲ圖ルヲ要ス。重砲ハ各々其砲座ヲ離隔シ、各個ニ装甲ヲ以テ防護スヘシ。連射砲ハ他ニ之ヲ掩護スル便法ノナキハ、宜シク砲塔内ニ安置スヘシ。砲術ノ進歩スルニ從ヒ、砲塔ハ漸々長キヲ加フヘキヲ以テ、砲塔ヲ計畫スルニハ、須ラク後來ヲ慮リ長サノ幾分ヲ猶餘セサル可ラス。即チ砲長二十尺ヲ過クル者ニローヤルソヴエレン號ノ裝載法ヲ用フ可ラサルヤ明カナリ。砲塔ノ速射砲用ニ供スルモノハ、其厚サ六吋乃至八吋ノハ、ハルヅ一鋼ヲ以テ防護シ、重砲用ノ砲塔ニハ、之ニ倍スル厚サノ装甲ヲ用フヘシ。舷側装甲ニ八吋或ハ九吋鋼ヲ用ヒムニハ、正角ヲ以テ打撃スルニ非サルヨリハ、長距離ニ在リテ八吋彈ヲ以テスルモ是レヲ穿貫スルヲ得ス、右ノ如キ戰艦ハ、戰艦ニ臨ムルハ三四個ノ司令部局（司令塔等ヲ云フ）ヲ有セサル可ラサルナリ。艦ノ復原力ニ關セサル以上ハ、務メテ大砲ヲ高所ニ裝載シ、以テ臨瞰ニ便ニシ又高浪ノ際利用スルニ適セシムヘシ。通風器及烟突ハ、上甲板ニ數尺ニ至ルマテ、其外周ニ薄装甲ノ空嚮ヲ樹立シ、以テ其破碎顛墜ヲ防クヘシ。乾舷ハ高キヲ利トス。然レモ、甲板上ノ諸造作ハ、勤メテ其小數ヲラントトヲ要ス。以上ノ諸條項ヲ悉皆完備セル戰艦ト雖モ、傷害ヲ受ルコ



トノ免カレサルハ勿論ナルガ、蓋シ戰艦ノ戦場ニ在リテ傷害ヲ受ケサラムト欲スルニハ、戰鬪力ノ諸要素ヲ擧ケテ悉ク防禦ノ資ニ投セサル可ラサルヲ以テ、是レ到底言フヘクシテ行テ可ラサルノ論ナルヘシ。

水線打撃ノ數ハ固ヨリ多カラスト雖モ、彈丸ノ意外ニ來リテ水際ヲ拍ツコハ往々アル者ナリ。若シ該部ニ傷害ヲ受クルモ、其禍害測ルヘカラサル者アリ。彼ノ伊國ノ大甲鐵艦ヲ除キ諸戰艦ノ悉ク裝甲帶ヲ纏ラスハ、即チ此害ヲ防衛セムカタメナリ。艦内ニ數多ノ小區畫ヲ設クルモ、裝甲ヲ以テ其外部ヲ防護セサルモ、遂ニ其浮泛力ヲ維持スヘカラサルナリ。例之一ノ大榴彈彼ノ伊國大甲鐵艦ノ裝甲板上ニ往々散見スルカ如キ小房中ニ爆裂セム乎、炸烟一閃四邊ノ房室悉ク粉碎シテ所々ニ裂口ヲ生シ、彼ノ輕浮性填充物恐ラクハ發火シ又其直下ノ裝甲甲板大損傷ヲ蒙リテ遂ニ榴彈ヲ艦外ニ排拒スヘキ舷板ノ墻壁ヲ失フニ至ラム。水線裝甲帶ヲシテ、該艦ヲ一周環繞セシムルコトハ、其必要ナル固ヨリ論ナシト雖モ、已ムテ得スシテ其幾部ニ裝甲ノ省略ヲ要スル場合ニハ、舳艫ノ兩端ニ之ヲ省略スルヲ得ム乎、蓋シ此ノ兩端ニ及ホス榴彈ノ災害ハ、他部ニ比スレハ稍尠ナキナリ。然レモ裝甲帶ハ勿論之ヲ全ク環繞スルニ若カサルナリ。即チ艦首ニ甚シキ傷害ヲ蒙ラム乎、艦ノ駛航力ノタメニ海水ノ浸入スル傾向ヲ來シ、從テ艦首部、水ニ深入シ大ニ艦ノ運轉力ヲ阻礙スルニ至ルナリ。而カモ是レカタメ艦尾昂リテ螺旋水面ニ近ツクヲ以テ之ニ敵彈ヲ受クルノ嫌ヒチ生スルノミナラズ水ノ抵抗力亦大ニ減スルヲ以テ、其旋轉急ニナリ其不利ノ影響悉ク機關且ツ推進機ニ及フナリ。艦尾ノ損傷ハ斯ク迄畏懼スヘキ危害ヲ起サズ。戰艦ニ裝載スヘキ大砲ハ、其數多ク、使用簡單ニシテ其勢力強大ナルヲ要ス。從來ノ經驗ニ依レハ、重

理想的戰艦ノ武裝

砲四門ハ、戰艦ニ最モ適當ナル利器ノ員數ナルカ如シ。唯最新式ナル獨國戰艦ニハ、六門ヲ備フル者ナリ、短距離ニ在リテ最厚ノ甲鐵ヲ穿貫スル能力ハ、實ニ此數門ノ巨砲ニ存スルナリ。然レモ其重量ハ又過度ニ流ル可ラズ、即チ五十口徑或ハ五十五口徑二十四口徑ニ在リテ厚サ二呎ノ鐵鐵ヲ穿貫シ、其重量ハ、三十噸以上ナリ。

千八百九十年式ノ如キ數年前ノ五十口徑二十四口徑ニ在リテ厚サ二十吋半ノ鐵鐵ヲ穿貫セリト云フ。

右ノ如キ巨砲ハ、ローヤルツヴェイン號ノ六十八噸砲ヨリ尙一層強大ナル穿貫力ヲ有スルニモ拘ラス、其重量ニ於テハ却テ其半ハニ及ザルヲ以テ、發火ヲ迅速ナラシムル爲メニ、電氣力或ハ水壓力ヲ以テ、旋回裝填ヲ行フベシト雖モ、亦必要ニ應シ、直チニ人力裝置ヲ裝着スルハ、容易ノ業ナリト云フ。

重砲ハ、裝甲ノ重量ニ餘裕アルモ、各一門毎ニ裝甲砲座ヲ設クルコト、猶彼ノ佛國戰艦マゼンタ號級ニ於ケルカ如クナスタ要ス。首要砲臺ハ、現今一所ニ集中セシムルノ傾向アリ。然ルニ補助砲臺ハ、何ガ故ニ諸所ニ離隔分配セシメサルヘカラサル乎、蓋シ補助砲臺ニハ、二十口徑或ハ十五口徑速射砲ヲ裝備スルコト其數ノ務メテ多カラムコトヲ欲スルガ、又或ハ敵ノ水雷艇ヲ擊退シ、或ハ接戰ノ際敵艦ノ非甲裝部ヲ打破センカタメ、十二斤及其以下ノ速射砲ヲモ配備セサル可ラス。戰艦ニ大小輕重諸種ノ砲煩ヲ裝載セサル可ラサルハ、現今ト雖モ尙子ノ時代ニ異ナラサルナリ。故ニ戰艦ニ唯一種ノ砲數十門ヲ配備セントスルノ論者ハ、是レ簡單ナル一觀念ノタメニ、全艦ノ効力ヲ犧牲ニ供セントスルノ論者ナリト謂サル可ラス。水雷攻撃ハ常ニ舳邊ヨリ來ルコト多シ、是強勢ナル艦首砲火ノ必要アル所以ナリ。故



ニ我人ハ謂フ、砲煩ハ諸所ニ配備シ其砲火ノ効力ヲ敵ノ一點ニ集注スヘシトノ要訣ハ、戰艦ノ計畫上ニ最モ服膺スヘク又應用セサル可ラサルナリト。吾人が以上ニ諸提説ヲ試ミ、完全ナラシメント欲セシ戰艦ヲ、現今ノ實用艦中ニ求ムレハ、英國マゼスチック號級ノ戰艦艦ト、殆ント同様ナルベキモ、重砲ノ砲坐四基ノ設備ヲ主張セシヲ以テ、此一事ノミハ稍數年前ノ佛國戰艦艦ト伯仲ノ間ニアルナリ。四基ノ重砲坐ヲ非トスル論説ハ、大ニ理アルカ如シト雖モ、吾人ノ見ル所ニ據レハ、反對論者ノ計畫ニ從ヒ主要砲ヲ裝載スルニ各二門ヲ以テ一對トシ、之レヲ一砲塔或ハ一露砲臺内ニ雙栖セシムルトキハ、敵艦一個ノタメニ全艦ノ主要砲力其半ヲ失フノ大不利アルヲ免カレサルナリ。

長距離ノ戰艦ニ在リテハ、重砲ハ唯時時實彈ヲ發射スルニ過キスシテ、敵ニ間斷ナク迅速砲火ヲ瀉注スル者ハ、速射砲ナリ。然レモ其漸ク接近スルニ及ンテハ、重砲ハ其大小強弱ニ隨ヒ、次第ニ敵ノ厚裝甲薄裝甲或ハ非甲裝部ニ對シテ打撃ヲ逞フスヘシ。

長距離ニ在リテハ、標的少ナルヲ以テ、敵艦ノ諸部ヲ識別シテ照準ヲ定ムルコト能ハサルナリ。然レモ重砲ニシテ斯ク敵艦ノ諸部ヲ識別シテ照準ヲ定メ得ルハ、全ク士官砲手ノ其敵艦ノ構造ヲ熟知スルニ藉ルナリ。蓋シ現今ニ於テ右様ノ件ニ關シ、精細ノ告知ヲ得ルハ容易ノ業ノミ、故ニ重砲ハ既ニ是期ニ至レハ、專心一意迅速砲火ヲ連續セサル可ラス。其主趣トスル所ハ、全艦隊ノ發射彈量ヲ擧クテ敵艦毎ニ霰集雨注セシムルニ在ルナリ。然レモ是レヲ爲セハ彼亦是レヲ爲スヲ以テ、必スシモ是レカタメ特ニ顯著ナル勝敗ヲ現出スルニハ至ラサルナリ。

砲火ノ敏速ナルハ、其砲架及尾栓裝置ト砲手ノ熟練トニ據ルノミナラス、大ニ彈藥ノ供給如何ニ關ス

ル者ナリ。速射砲ノ爲メニ揚彈機揚藥機ヲ裝備スルハ、甲板下ニ在リテ彈藥供給ニ從事スル人員ヲ要セス、又上甲板ニ火藥庫ヲ假設スルノ勞ヲ省クヲ得ルヲ以テ、最モ便利ナリ。特ニ數多ノ大砲ノ密接スル甲板上ニ火藥ヲ堆積スルハ危險ノ火口ニシテ、彼ノバレストロ號、松島號ニ不慮ノ災厄ヲ釀セシ因ノ全ク斯ノ如キ火藥ノ暴露ニ在リシハ吾人ノ熟知スル所ナリ。バラグ井ノ戰亂中ニモタマンデール號ニ於テ、此原因ヨリ三回ノ爆裂アリキ。然レモハマン大佐ハ千八百九十五年八月ノセンテエーリイ雜誌ニ寄帥シテ「余ハ敵ニ急速砲火ノ利ヲ讓ランヨリハ、寧ロ爆發ノ危險ヲ冒サム」ト論述セリ。

戰艦中命  
令ノ繼續

戰艦中ニ艦内ノ指揮官ノ頃刻ノ間ニ數ニ轉換スルハ、固ヨリ免カレサル所ナリ。ハスカイ號ハ、智利ノ甲鐵艦ト對戰中、僅々數分ノ間ニ四人ノ艦長ヲ換ヘタリ。鴨綠江ノ役亦赤城ハ、其指揮官踵ヲ接シテ死傷シタリ。蓋シ接戰等ニ際シテ斯ノ如キ非運ニ遭フハ、如何ナル戰艦ト雖モ、數ノ免レサル所ナルヘシ。故ニ平時艦隊運動ノ際、艦内ノ將校ヲ悉ク艦ノ操縦ニ慣熟セシムルハ、最モ樞要ノ一大事ナルヘシ。又艦内ニ死傷ノ特ニ多キ場合ニ少數ノ人員ヲ以テ關フ方法ノ如キモ亦宜シク平日ニ講習スヘキコトナリ。現今ノ戰艦艦ニハ、一人ノ豫備員ヲ配セス。然レモ砲前ニ斃レ、或ハ敵前ニ露出シタル位置ニ在リテ死傷シタル者ノ空位ハ、必要ノ稍少ナキ場所ヨリ之ヲ補缺セサルヘカラス。而シテ若シ之ヲ汽罐部員ヨリ取ラム乎、艦ノ速力ヲ損セム、去レハ之ヲ火藥庫員ヨリ補ハム乎、砲火ノ迅速ヲ害セム、乃チ是時ニ當リ胸腹ノ以テ背脊ニ替フ可ラサルヲ見ルハ、指揮官其人ノ方寸ニアルノミ。故ヲ以テ、機關部員及機關兵ニモ、亦平素餘暇ヲ以テ砲術ノ練習ヲ授クルノ必要アルヤ明カナリ。而カモ其必要ヲ識認スル時ハ、



是レ戰艦生死ノ際ニ在リ。

茲ニ一見瑣事ニ似テ、而カモ其實甚タ彼我ノ大勢ニ關スル者アリ。彼我ノ戰艦ノ外舷塗色或ハ標識線ノ如キ即チ是ナルガ、彼我俱ニ假裝ヲナスモ、俱ニ益スル所少ナキヤ知ルヘシ。戰艦ノ全周ニ廣幅ノ標識線ヲ施シ、毎週其塗色ヲ變更スルカ如キハ、僚艦相互ニ認識スルニ便益ヲナスコト多ク、而カモ艦隊中各艦ノ識別ヲ容易ナラシメニハ、塙國ノ制規ノ如ク烟突ヲ周ラシテ識別線ヲ畫塗スルモ亦頗ル便利ナルカ如シ。以上ノ如ク種種ノ豫防ヲナスト雖モ、亂闘ニ臨ムデハ、尙僚艦ニ不慮ノ災厄ヲ來スコト多カルヘク、殊ニ烟焰盆起中ニ在リテ其所在ノ分明ナラサル戰艦ハ、互ニ意外ノ損傷ヲ蒙ルコト最モ多カラム。又砲手ノ注意周到ナラサルモ、神氣激昂ノ餘如何ナル危變ヲ釀成スルヤ知ルヘカラス、加之陰砲堡或ハ砲塔中ヨリ四方ヲ瞰視スルモ、眼界甚タ狹隘ナルヲ以テ、其視線内ニ來ル者ハ、往往彼我ノ識別ヲモ爲サズシテ直チニ射撃スルコトアリ。且ツ戰闘中ニ在テハ、各員概シテ其舉動ノ快活ナラムコトヲ欲シ、佇立又ハ看守スルヲ好マサル傾向ノアル者ナリ。是ニ於テ吾人前陳ノ事情ヲ想起シテ益々紀律教練ノ最モ重スヘキ者ナルヲ知ルナリ。

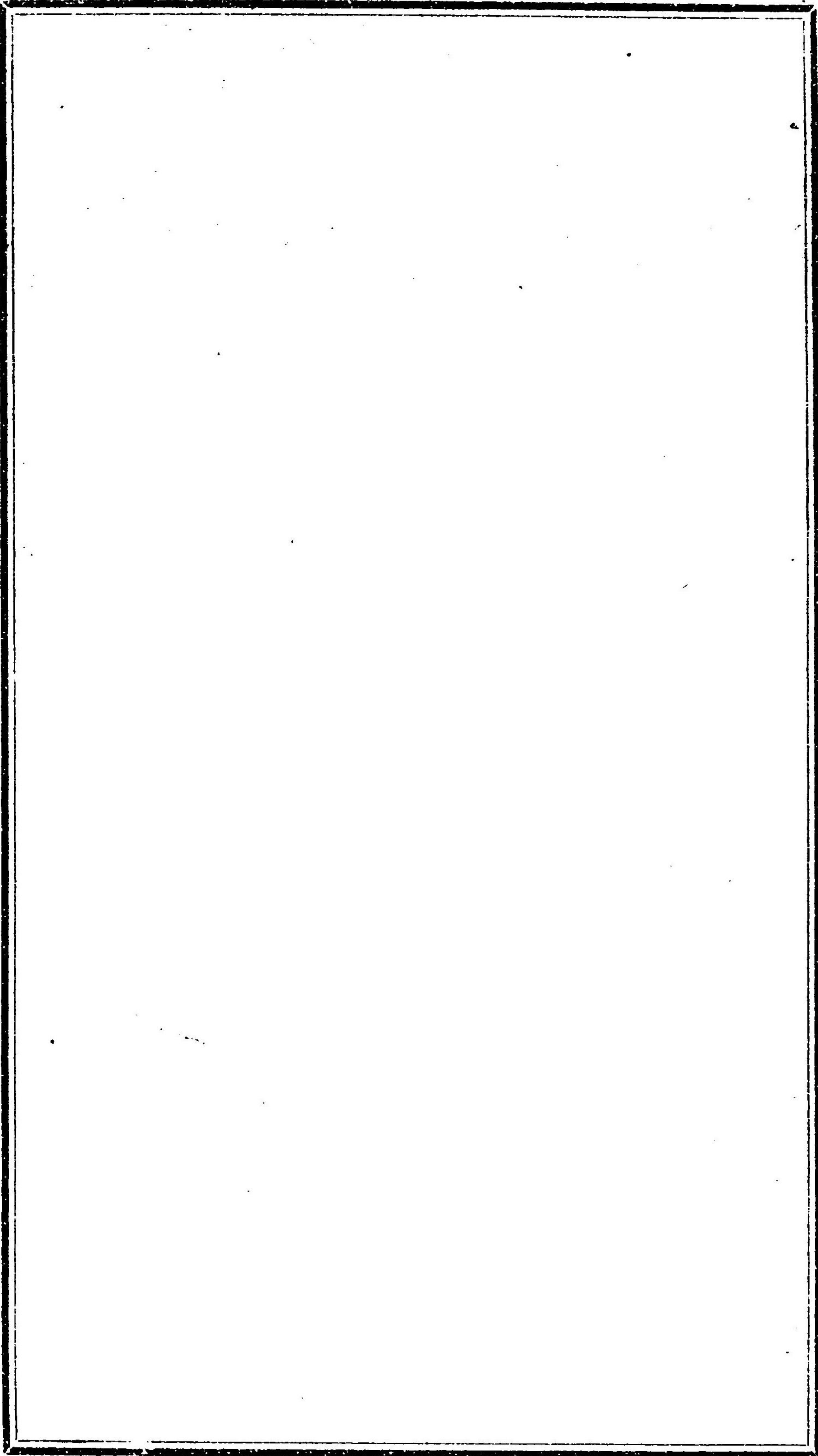
概括

以上ハ則チ明日ノ海戰ノ豫言ナリ。今之ヲ概括スレハ、巨艦ノ二大戰列アリ、共ニ汽走シテ相距ル遠シト雖モ、炮烟天ヲ覆ヒ、彈霰飛來ス、數分間ニシテ烟突及甲板ノ諸材等四邊ニ片飛シ、艦脚ノ増潜速力漸ク減シ、諸艦相繼テ後陣ニ退カムトス。是レ接戰期ノ到來ニシテ、應サニ羸列ノ雌雄ヲ決セムト輸列ニ向ヒ勇往猛進ヲ試ムヘキ時ナルガ、即チ此機會ゾ是、羸列ノ撞角及ヒ水雷、沈艦裂彈ノ修羅場裏ニ立テ其長技ヲ逞フシ、輸列ノ水雷艇、其毀艦ヲ援護スルモ徒勞ニ屬シ、血海ノ上毒烟ノ下、海上ノ主權ヲ

シテ遂ニ人世一代ノ間、彼我ノ一方ニ歸セシムルノ秋ニゾアル。抑々斯ノ如キ邂逅ハ、吾人ニ如何ナル感想ヲ起サシムルモノナル乎。蓋シ此邂逅ヲ經テ、生ヲ保チシ者ハ即チ一世中ノ經驗者トナリ、死セシ者ハ即チ百世ノ榮譽者トナルニ外ナラザルナラム。夫レ我英國艦隊ノ、幸運ニ乘シ、天護ニ依リ、以大功ヲ奏サムコトハ、是實ニ全英國民ノ舉テ熱望祈願スル所ナラム。乃チ成功ノ本源ハ、固ヨリ人心ノ剛毅節操ニ在テ存スト雖モ、亦事ヲ計ルハ人ニ在リテ事ヲ成スハ天ニ在レバ、偏ニ天帝ノ膝下ヨリ出ルモノ、多キヲ知ラサル可ラス。

明日ノ海戰 終





明治二十九年六月廿九日印刷  
明治二十九年六月三十日發行

東京市京橋區築地四丁目一番地

# 水 交 社

發 行 所

編 發  
輯 行  
者 兼

鈴 木 光 長

東京市京橋區築地  
四丁目一番地寄留

印 刷 者

山 本 鏝 次 郎

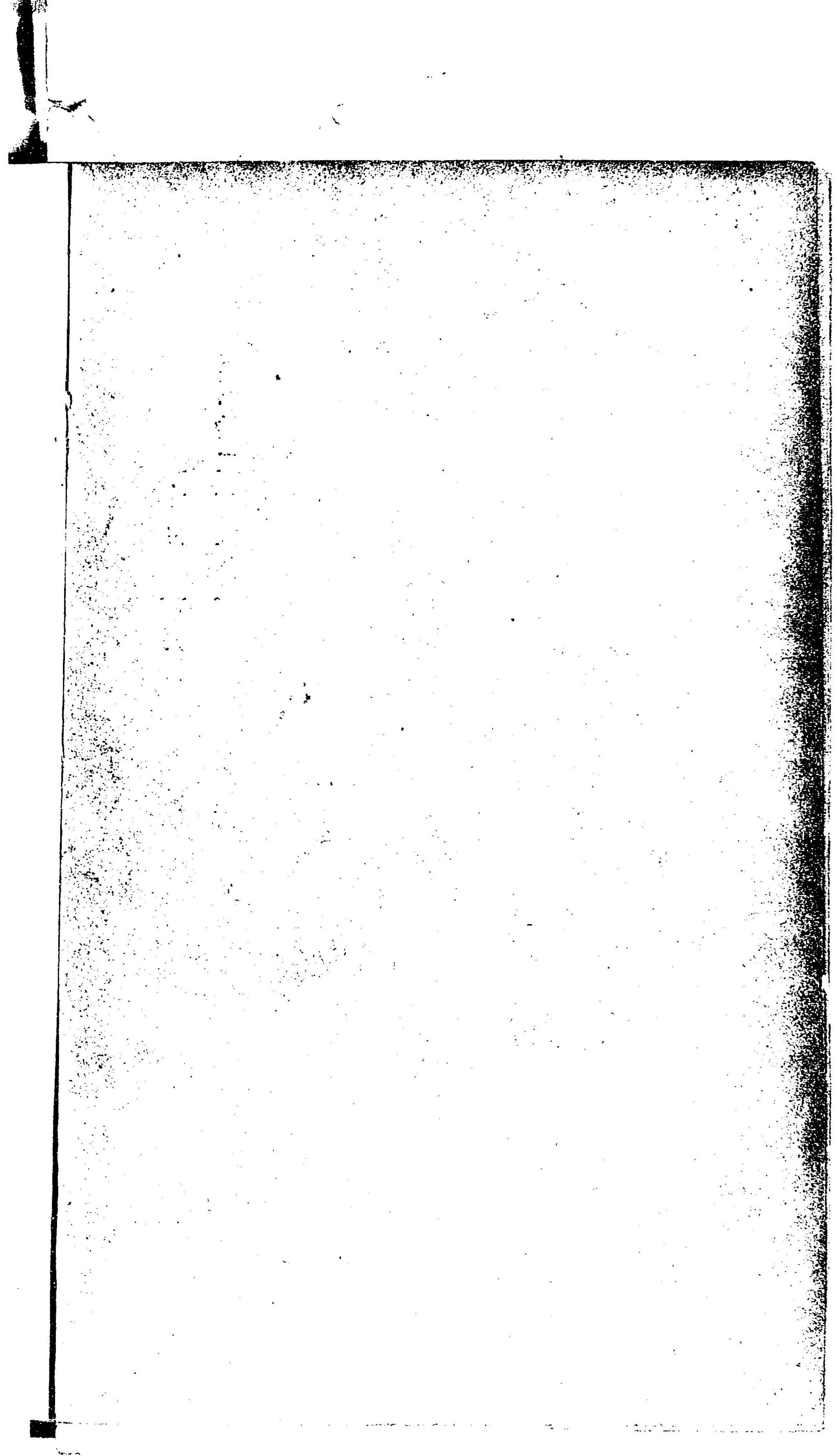
京橋區西紺屋町廿六七番地  
秀英舍々員

印 刷 所

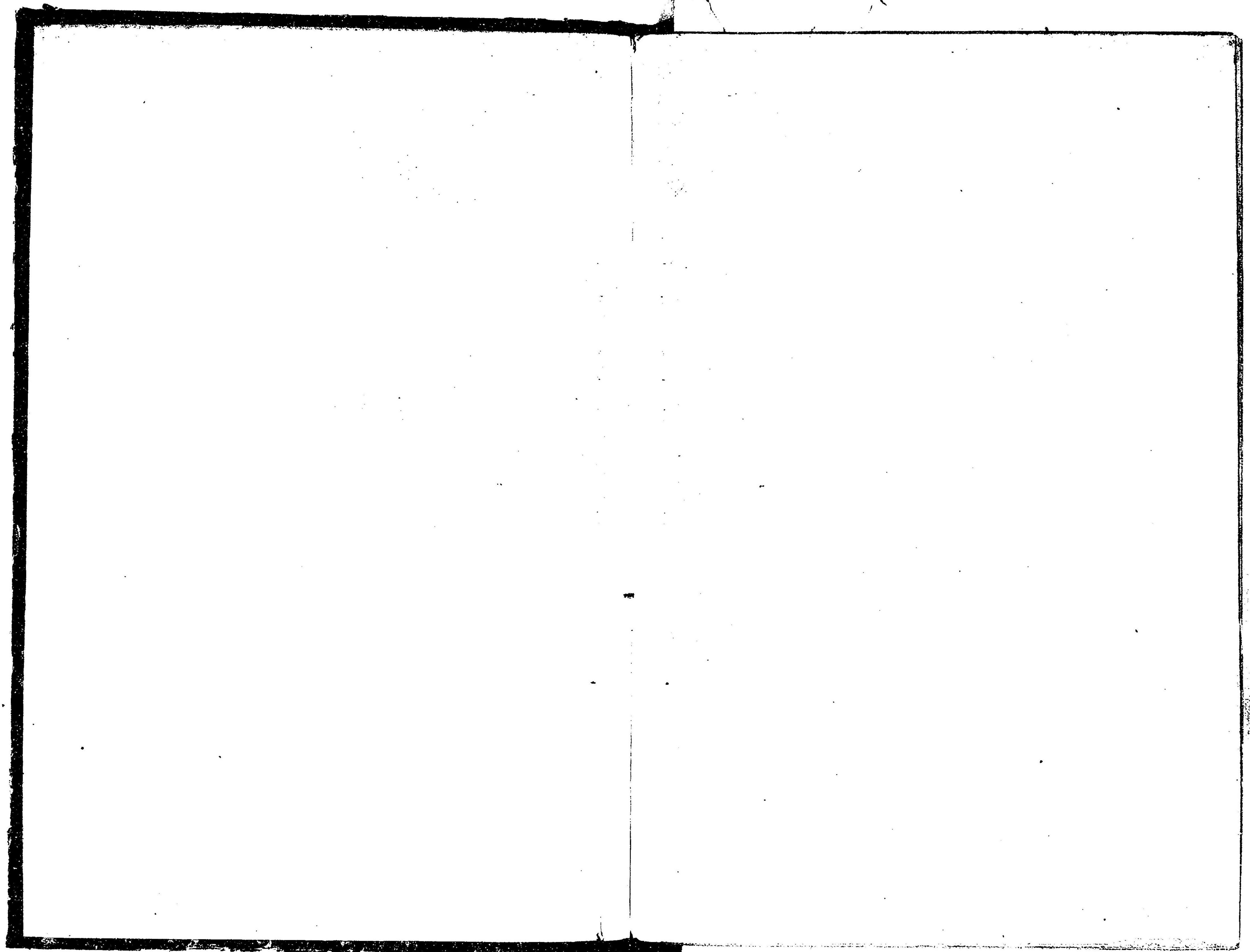
株式會社 秀 英 舍  
京橋區西紺屋町廿六七番地

40  
282

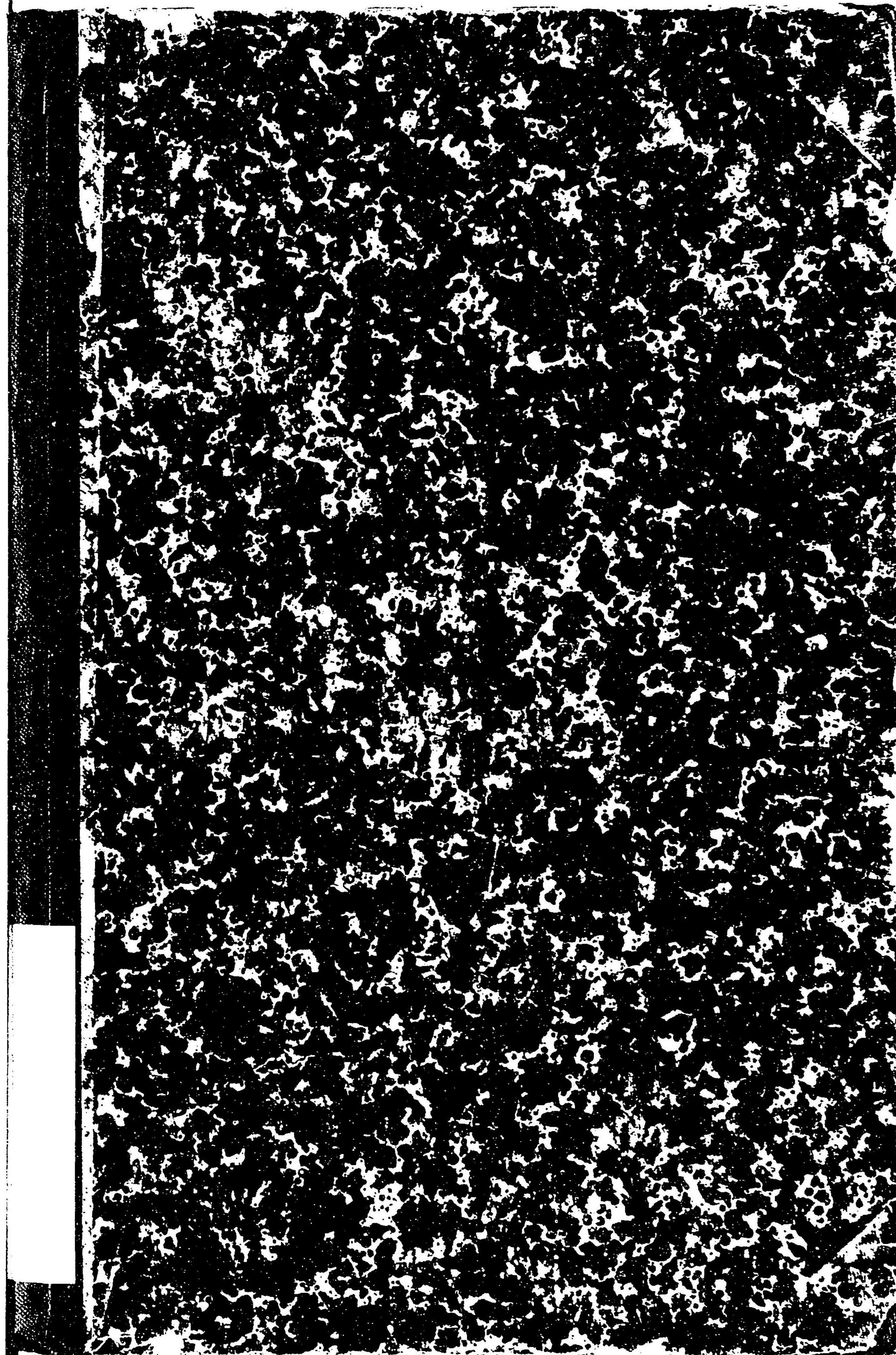














40

282

052571-000-0

40-282

明日之海戦

H・W・ウイルソン/著

M29

BFH-0001

